

福山市地域資源調査報告書

2023年(令和5年)3月
福山市企画財政局企画政策部企画政策課

目次

I. 前提整理

- (1) 趣旨
- (2) 調査の進め方
- (3) 位置付け
- (4) 関連計画の位置付けとサマライズ

II. 本市を取り巻く現状と強化の視点

(1) データからみる本市の現状と課題

- ア. 社会の状況
- イ. 産業・経済の状況
- ウ. 観光の状況
- エ. 広島県・せとうちDMO等の戦略・集計データ整理

(2) コロナ禍を経た国内外の観光マーケットやトレンドの変化

- ア. 専門家ヒアリング
- イ. 専門家ヒアリングのまとめ
 - ・新型コロナウイルス感染症による影響
 - ・旅スタイルの変化
 - ・観光に求めることの変化
 - ・観光地が求めることの変化

(3) 現状を踏まえた強化の視点

III. 本市の地域資源・活動の整理と評価

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

- ア. キーパーソンヒアリング
- イ. ワークショップ

(2) 地域資源の整理と専門家による評価

- ア. 地域資源の整理・評価の方針
- イ. 各エリアの特長と代表的な地域資源
- ウ. 各エリアの主な地域資源の一覧
- エ. 専門家による評価

(3) 地域資源の現状分析・評価

(参考) テーマ別の取組アイデア検討

- (1) 伝統ものづくり
- (2) リトリート
- (3) 食
- (4) 瀬戸内海の魅力
- (5) 歴史的価値
- (6) 生活文化・アート

I. 前提整理

(1) 趣旨

本市は、広島県東部で岡山県との県境に位置する人口約46万人の中核市で、鉄鋼業を中心に多種多様な製造業が集積しており、多くの上場企業やオンリーワン・ナンバーワン企業を抱えるものづくりに強いまちとして発展しています。JR山陽新幹線のぞみ号の停車や山陽自動車道、国の重要港湾である福山港など、中国・四国地方の交通・物流機能の拠点でもあります。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、本市人口は2020年（令和2年）をピークに減少に転じており、年少人口・生産年齢人口は減少を続け、高齢化率は2045年（令和27年）に33.0%となることが予測されています。また、2012年（平成24年）以降は自然減、2013年（平成25年）以降は社会減が継続し、特に女性や20歳代の転出超過が大きい状況が継続しています。

2020年（令和2年）から拡大を続けた新型コロナウイルス感染症は、世界に衝撃を与えたと同時に、「新しい生活様式」という大きな変革を人々の暮らしにもたらしました。これに伴い、観光分野においても、これまでのように誘客を促進し、消費を追求するだけでなく、観光客と地域住民双方の安全・安心を実現していくことへの変化が求められています。

本市では、2021年（令和3年）3月に「福山みらい創造ビジョン」を策定し、市民が安心して暮らせ、未来に希望を持てる新たな都市づくりに取り組んでいます。そして、2022年（令和4年）3月には、個性豊かで活力ある地域づくりを進めるため「福山市地域戦略」を策定し、その中で、地域の産業や自然環境、歴史的・文化的資源、その地域でしかできない体験や学び等の地域資源の活用を進めることとしています。

本市は、瀬戸内海の恵に育まれた豊かな自然環境や、“全国唯一”の天守北側鉄板張りである「福山城」、2025年には世界バラ会議福山大会を控え、本市のシンボルである「ばら」、古くから潮待ちの港として栄え、万葉集にも詠まれている「鞆の浦」など、ここにしかない資源を有しています。これらの資源を活かして、地域産業の活性化や雇用の確保につなげていくことが重要です。

しかし、様々な可能性のある地域資源を持ちながら、有効に活用されていないものや十分に認知されていないものなどが多く存在しています。個性豊かで活力ある地域づくりを進めていくためには、本市の特徴や新型コロナウイルス感染症による社会の変化などを踏まえ、本市としての基本的な考え方や方向性等を整理し、共通認識を持って地域資源の活用を進めていくことが求められます。

本報告書は、その基礎となる地域資源を調査し、取りまとめたものです。

(2) 調査の進め方

ステップ①：既存計画及び計画の位置づけ整理

背景目的

これまでの
計画との位置づけ

ステップ②：既存の動態整理・トレンド変化整理

福山市
動態の整理

専門家
ヒアリング

各種動態整理
・福山市
・その他機関

コロナ禍を経た
社会需要
の変化整理

ステップ③：福山の現状把握・評価

市内
キープレイヤー
ヒアリング

ワークショップ

各地域エリアの
資源発掘・整理

専門家
視察

資源評価・展望

ステップ④：テーマ別の取組アイデア検討

ステップ⑤：今後の展開

(3) 位置付け

福山みらい創造ビジョン、地域戦略、地域未来ビジョンの関係性

最上位計画

みらい創造ビジョン (2021年3月策定)

位置付け

- ・ 第五次福山市総合計画の第2期基本計画として、「福山市総合戦略」と一本化して策定
- ・ 将来のまちの姿を明らかにし、市民と行政が共に取り組むまちづくりの指針

計画期間

2021年度～2025年度（5年間）

個別計画
(基本計画)

地域戦略 (2022年3月策定)

位置付け

- ・ 「みらい創造ビジョン」のめざす姿の実現に向けて、個性豊かで活力ある地域づくりを進めていくために、今後の地域づくりの在り方や行政支援の考え方を示したものの

計画期間

2022年度～2025年度（4年間）

地域資源活用の
具体的方策

(仮称) 地域未来ビジョン (2023年度末以降、順次策定)

位置付け (案)

- ・ 地域の産業や自然環境、歴史・文化資源、その地域でしかできない体験や学び等の様々な地域資源を活用して、個性豊かな地域づくりを進めるための方策

新5つの挑戦

- ・ 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造
- ・ 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現
- ・ 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築
- ・ **新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興**
- ・ 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

取組の方向性

- ・ 地域コミュニティの再構築
- ・ 生活基盤の維持
- ・ **地域資源の活用**
- ・ 地域への関心・関係づくり（関係人口創出等）
- ・ 地域のデジタル化の推進

(4) 関連計画の位置付けとサマライズ

関連計画として、観光振興基本戦略（2021年度策定）や農林水産振興ビジョン（2022年度策定）、文化財保存活用地域計画（2023年度策定予定）との関係性を整理します。

観光振興基本戦略

(4つの戦略)

1 観光資源の発掘・磨き上げと発信

- ・潜在的な資源をポストコロナに対応した視点で磨き上げ、新たな観光コンテンツとして磨き上げ・発信します。

2 周遊しやすい観光の推進

- ・市内各地に潜在する観光資源に着目し、市内及び備後圏域内の周遊を促す仕組みづくりを行います。

3 MICEの推進

- ・産業MICE、エリアMICEの推進に向け、産学官が一体となったMICE誘致に取り組みます。

4 観光客の受入環境の向上

- ・世界パラ会議福山大会に向けて増加が予想される国内外からの観光客の受入環境の整備を進めます。
- ・おもてなしに関わる人材育成に加え、市民のシビックプライドの醸成に取り組みます。

農林水産振興ビジョン

(関連する主な方向性)

1 農業

- ・観光事業者などの異分野との連携により、市内農産物の魅力発信に取り組みます。

2 林業

- ・林業経営体による間伐材活用やキャンプ場経営など、新たなビジネスモデルが生まれる環境整備を推進します。

3 水産業

- ・観光事業者など異分野との連携により、備後フィッシュの魅力発信やノリ養殖体験などの体験型ツーリズムを促進します。

4 各分野の連携

- ・6次産業化等による新商品開発や農林水産物のブランド化により、農林水産物の付加価値向上を図ります。
- ・食育や体験学習などを通じて、子どもの頃から農林水産業に触れ合う機会を創出します。

文化財保存活用地域計画

(保存・活用の方向性)

1 つながりを持った文化財の保存・活用による価値の顕在化と魅力づくり

- ・明確なテーマやストーリーの元に関連する文化財を取り上げ、相互につながぐことで相乗効果を発揮させ、個としての魅力に群としての魅力を加え、福山ならではの文化財の価値や魅力を高めます。

2 周辺環境を含めた文化財の保存・活用による文化の薫り高い地域づくり

- ・特に、活用できる文化財が数多くある区域、関連する文化財やそれらをつなぐルートでは、面的・ネットワーク的に文化的な環境づくりをめざします。

地域資源活用の方向性の整理に当たっては、地域資源の属する各分野の計画の方向性との整合を図りながら検討を進めていく必要があります。各計画においても、分野を超えた連携を今後の方向性として示しています。分野を超えてつながることで、相乗効果を発揮する方策を検討していくことが求められます。

Ⅱ. 本市を取り巻く現状と強化の視点

Ⅱ. 本市を取り巻く現状と強化の視点

狙い・位置付け

「Ⅱ. 本市を取り巻く現状と強化の視点」では、本市を取り巻くマクロな社会環境を概観し、各エリアが取り組むべき方向性を検討する上で踏まえるべき視点を整理する。

はじめに、社会、経済・産業、観光などの各種統計データ等により、客観的なファクトに基づいて本市の状況を把握します。特にデータから見える本市の抱える課題について分析します。

また、2020年（令和2年）以降、新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の価値観や国内外の市場環境など、国内外の社会に大きな変化が起きています。こうした変化は統計データからだけでは読み取ることができません。

そのため、こうした質的な変化については、特に観光や地域経営について知見を持つ専門家へのヒアリングを行い、コロナ禍を経た観光マーケットやトレンドについて把握します。

上記のデータ分析、専門家ヒアリングにより、質的・量的の両方の観点から本市を取り巻く現状を整理し、本市の今後強化したいポイントについて検討します。

その上で、今後強化すべきポイントや本市の観光による地域づくりの可能性などを検討します。

【「Ⅱ. 本市を取り巻く現状と強化の視点」構成】

- (1) データからみる本市の現状と課題
 - ア. 社会の状況
 - イ. 産業・経済の状況
 - ウ. 観光の状況
 - エ. 広島県・せとうちDMO等の戦略・集計データ整理

- (2) コロナ禍を経た国内外の観光マーケットやトレンドの変化
 - ア. 専門家ヒアリング
 - イ. 専門家ヒアリングのまとめ
 - ・新型コロナウイルス感染症による影響
 - ・旅スタイルの変化
 - ・観光に求めることの変化
 - ・観光地が求めることの変化

- (3) 現状を踏まえた強化の視点

(1) データからみる本市の現状と課題

ア. 社会の状況①

- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、総人口は2020年をピークに減少に転じ、2040年には44.0万人、2060年には39.5万人と40万人を下回ることが予測されています。
- 人口の年齢構成をみると、15歳未満の年少人口は一貫して減少傾向にあり、15～64歳の生産年齢人口も1995年の31万人をピークに減少しています。今後、年少人口及び生産年齢人口は引き続き減少し、65歳以上の高齢化率は、2055年には33.6%まで上昇し、高い水準のまま推移することが予測されています。
- このように、人口減少・少子高齢化は福山市においても確実に進む見込みであり、労働力・購買力がともに縮小することや地域コミュニティの担い手が減少することなどが懸念されます。



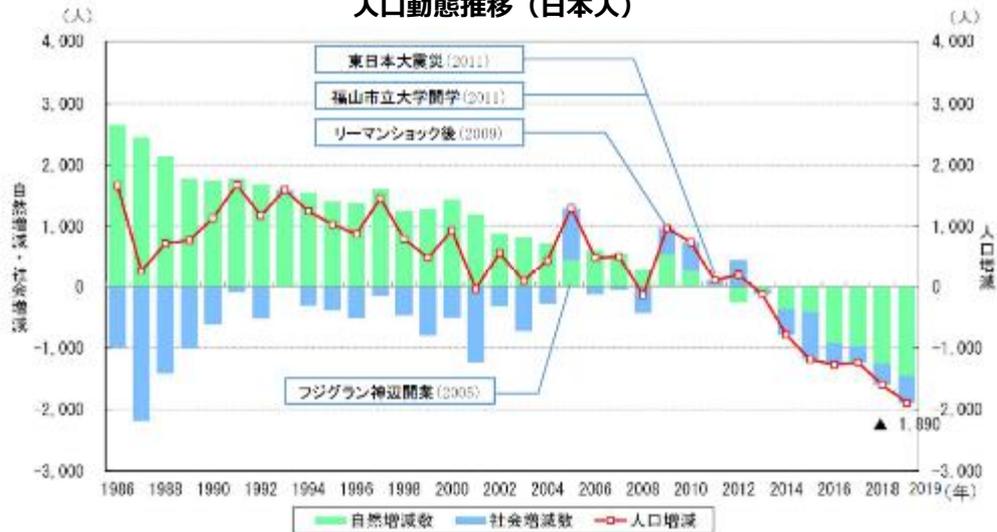
II. 本市を取り巻く現状と強化の視点

(1) データからみる本市の現状と課題

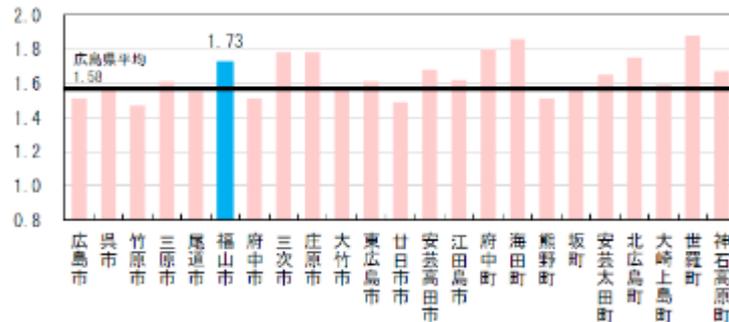
ア. 社会の状況②

- 社会増減数は2005年から2012年にかけてはプラスになる年次も見られましたが、2013年以降は転出超過の状態が続いています。
- 2012年以降、死亡者数を出生者数が下回る自然減の状態が続いていますが、合計特殊出生率（2013-2017年）を見ると、福山市は1.73と広島県平均の1.58と比べて高くなっています。
- 高齢化による自然減を止めるのは難しいものの、社会増をめざすことで人口減少をソフトランディングすることができます。

人口動態推移（日本人）



合計特殊出生率



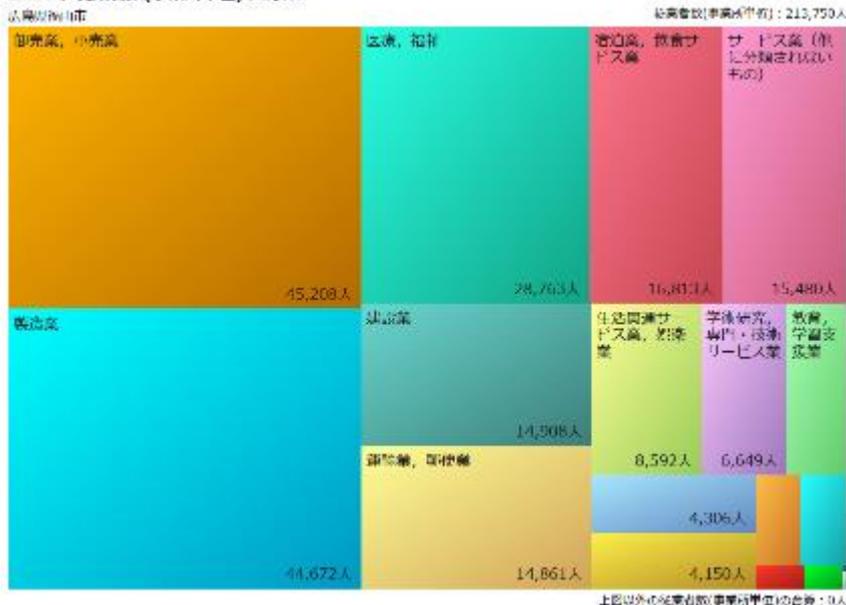
II. 本市を取り巻く現状と強化の視点

(1) データからみる本市の現状と課題

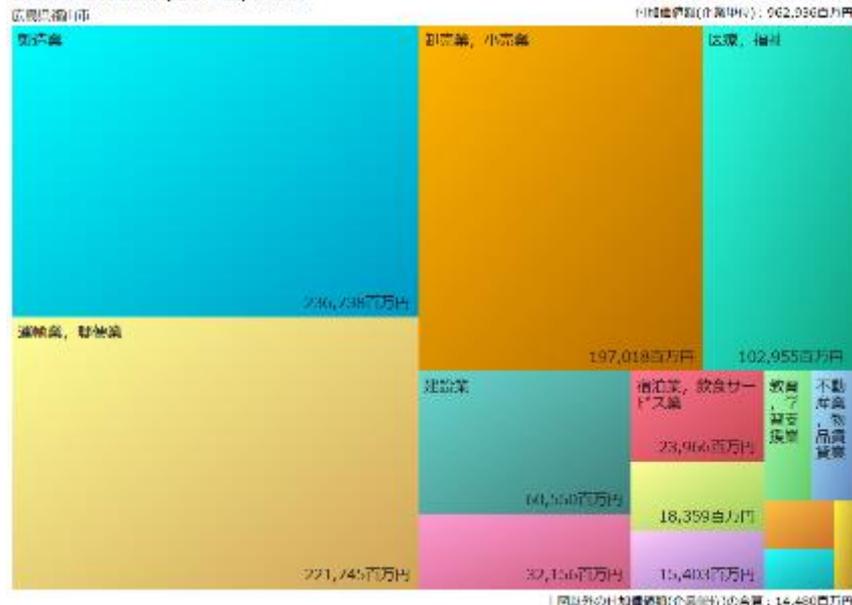
イ. 産業・経済の状況①

- 従業者数について見ると、「卸売業，小売業」45,208人、「製造業」44,672人、「医療，福祉」28,763人と、福山市ではこれらの産業が雇用の大きな割合を占めています。
- また、付加価値額についても、「製造業」2,367億円、「運輸業，郵便業」2,217億円、「卸売業，小売業」1,970億円となっており、製造業が最も多くなっており、ものづくりが大きな付加価値を生んでいます。

2016年 従業者数(事業所単位) 大分類



2016年 付加価値額(企業単位) 大分類



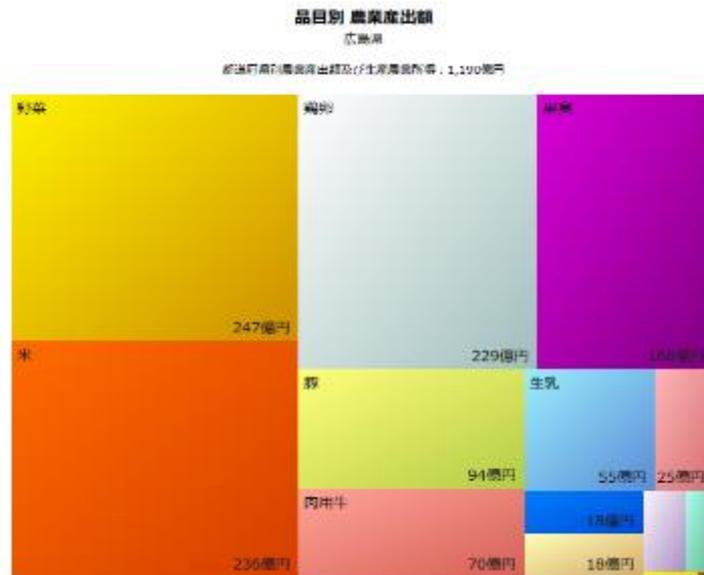
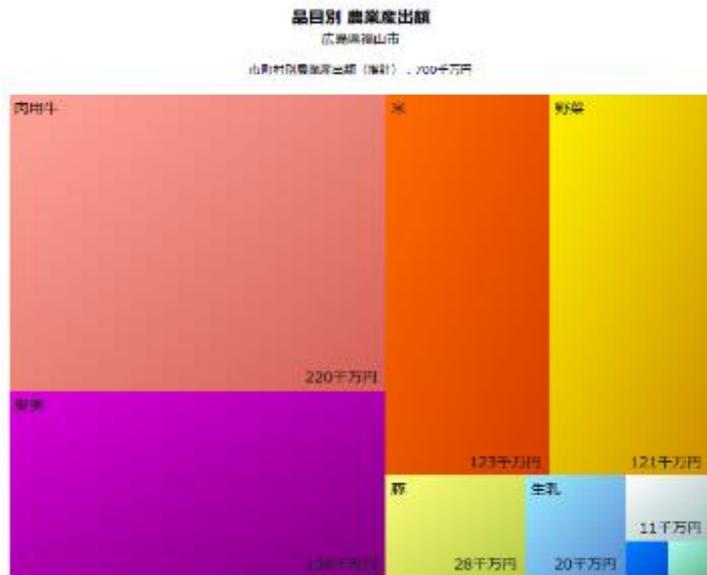
【出典】地域経済分析システムRESAS（総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工）

【注記】本社で働く事業所の従業者も事業所で計上。従業者数については、事業内容等不詳を除く民営事業所の従業者について集計したものである。

(1) データからみる本市の現状と課題

イ. 産業・経済の状況③

- 農業産出額について見ると、「肉用牛」「果実」「米」が大きな割合を占めており、県全体と比べて「肉用牛」「果実」の産出額が大きくなっています。

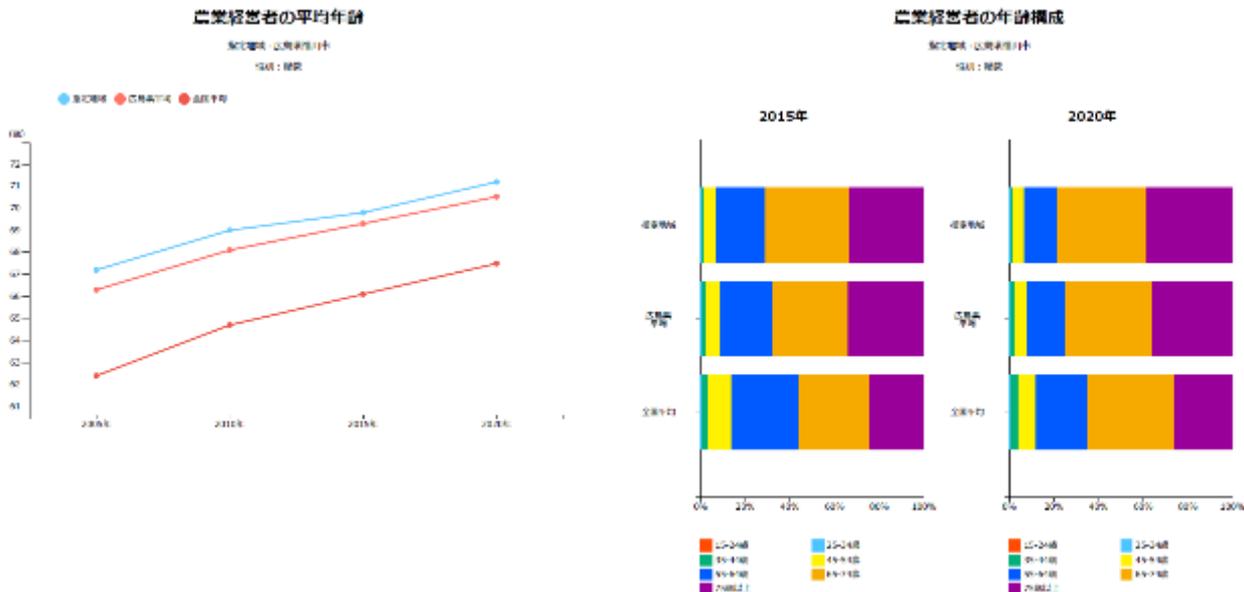


【出典】地域経済分析システムRESAS（農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」、農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」）

(1) データからみる本市の現状と課題

イ. 産業・経済の状況④

- 農業経営者の平均年齢は、全国平均・県平均より高齢で推移しています。
- 年齢構成（2020年）について見ると、65歳以上が約78%を占めており、高齢化が大きな課題となっています。
- 「福山市農林水産振興ビジョン」では、農地の集積・集約化による経営力のある担い手を全国から誘致することや、スマート農業などによる稼げる農業への転換を進めることとしています。
- また、こうした取組に加え、半農（漁）半Xや農福連携などを含め多様な地域の担い手の育成・確保や、産直市や道の駅などを地域の拠点として活用することで地域に人を呼び込むとともに、食育や体験学習などを通じて、子どもの頃から農林水産業にふれあう機会を創出することで、未来の担い手の確保につなげていくこととしています。



【出典】 地域経済分析システムRESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

【注記】 農業経営者：農業経営の管理運営の中心となっている者をいい、生産品目や規模、請け負う農作業の決定、具体的な作業時期や作業体制、労働や資本の投入、資金調達といった経営全般を主宰する者をいう。

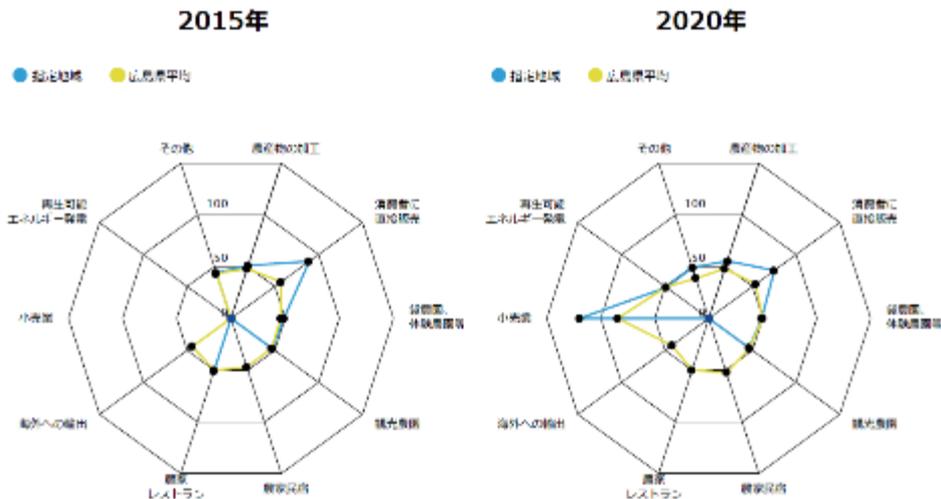
(1) データからみる本市の現状と課題

イ. 産業・経済の状況⑤

- 農業生産関連事業の実施状況について見ると、「消費者への直接販売」が高くなっており、農業経営体が直販できているという強みがあることがわかります。
- また、「福山市農林水産振興ビジョン」では、農林水産物・文化・自然など多様な地域資源を活用し、6次産業化等による新商品開発やブランド化により、農林水産物の付加価値向上を図るとともに、こうした取組を効果的・効率的に進めるため、備後圏内の市町との連携を強化するとされています。

農業生産関連事業の実施状況(レーダーチャート)

指定地域：広島県福山市



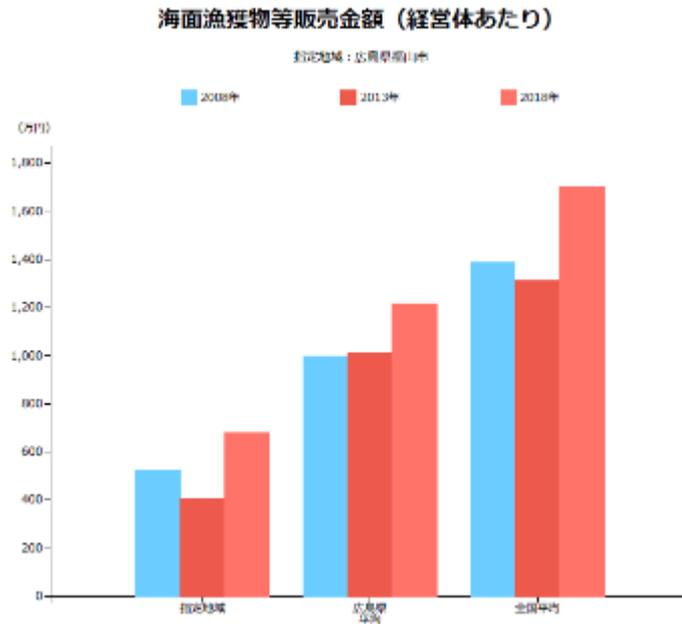
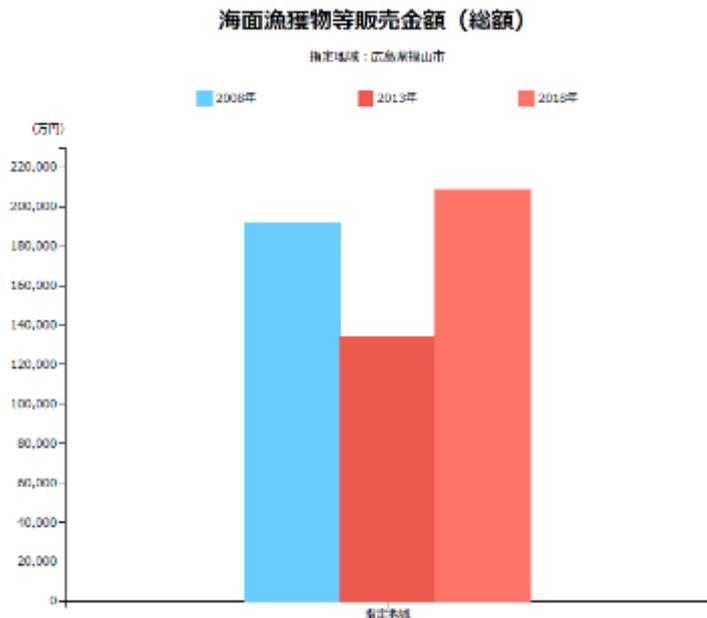
【出典】地域経済分析システムRESAS（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

【注記】レーダーチャートは各関連事業を実施している経営体数を偏差値化して表示。秘匿値の場合は赤い点、データがない場合は青い点が表示。

(1) データからみる本市の現状と課題

イ. 産業・経済の状況⑥

- 海面漁獲物等販売金額について見ると、2018年は2013年と比較して約74百万円（約56%）増加しています。
- 経営体あたりの海面漁獲物等販売金額は、全国・県平均より大幅に低く、小規模な経営体が多いことがわかります。
- 稼げる水産業の実現に向けて、「福山市農林水産振興ビジョン」では、観光事業者など異分野との連携により、「備後フィッシュ」の魅力発信やノリ養殖体験などの体験型ツーリズムを促進することとしています。



【出典】地域経済分析システムRESAS（農林水産省「漁業センサス」再編加工）

【注記】販売金額＝Σ（各階層中位数×各階層経営体数）。最上位層の中位数は、16億円として推計。海面漁獲物等販売金額には海面養殖販売金額が含まれる。

(1) データからみる本市の現状と課題

ウ. 観光の状況①

- 福山市の2020年の観光客数は379万人と、広島市、尾道市に次いで県内3位となっています。
- 国内外から多くの観光客が訪れる広島県において、大きなポテンシャルがある地域といえます。

市町別観光客数の順位（上位 10 市町）

（単位：万人、％）

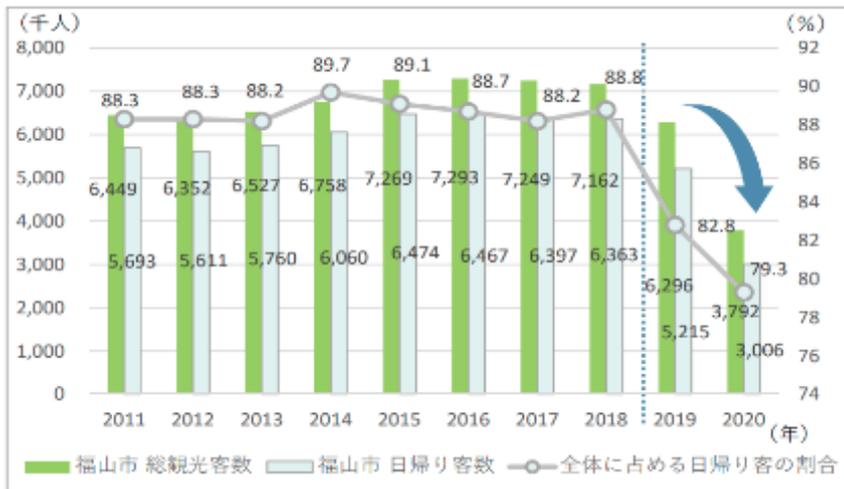
順位	市町名	平成 31 (令和元)年	令和 2 年	令和 3 年	増減数 R3-R2	増減率 R3/R2	増減数 R3-R元(R31)	増減率 R3/R元(R31)	R2 順位
1 位	広島市	1,621	970	899	▲71	▲7.3	▲722	▲44.5	1 位
2 位	尾道市	683	470	462	▲9	▲1.9	▲221	▲32.4	2 位
3 位	福山市	630	379	354	▲25	▲6.6	▲276	▲43.8	3 位
4 位	廿日市市	791	367	329	▲39	▲10.5	▲462	▲58.4	4 位
5 位	三原市	416	272	272	+1	+0.2	▲144	▲34.6	5 位
6 位	安芸高田市	177	226	213	▲12	▲5.5	+36	▲20.4	6 位
7 位	世羅町	229	179	197	+19	+10.4	▲32	▲14.0	9 位
8 位	三次市	348	207	188	▲20	▲9.6	▲160	▲46.0	7 位
9 位	東広島市	281	196	175	▲20	▲10.5	▲106	▲37.7	8 位
10 位	庄原市	256	173	167	▲6	▲3.2	▲89	▲34.7	10 位

(1) データからみる本市の現状と課題

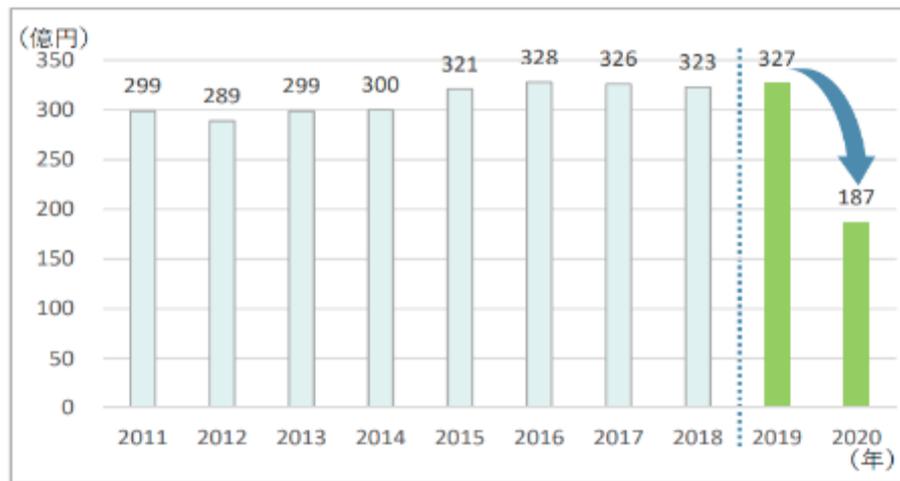
ウ. 観光の状況②

- 2020年の観光客数は、コロナ禍前の2019年と比べて約250万人減少するなど、大きな影響が生じています。
- 観光客数に占める日帰り客の割合は約8～9割で、ほとんどが日帰り客となっています。
- 観光消費額についても、2020年は2019年と比べて約140億円と大きく減少しており、観光業への打撃は甚大になっています。
- こうした課題をふまえ、「福山市観光振興基本戦略」では、宿泊客や観光消費額を増加させるため、体験型コンテンツやナイトタイムエコノミーの創出、ワーケーションの推進などによって、滞在時間を延伸することが必要であり、市内の観光資源や備後圏域内の観光資源を結びつけることで、さらなる周遊促進につなげることが重要であるとしています。

総観光客数の状況



観光消費額の状況



【出典】福山市観光振興基本戦略（「広島県観光客数の動向」（広島県（2018年まで）・一般社団法人広島県観光連盟））

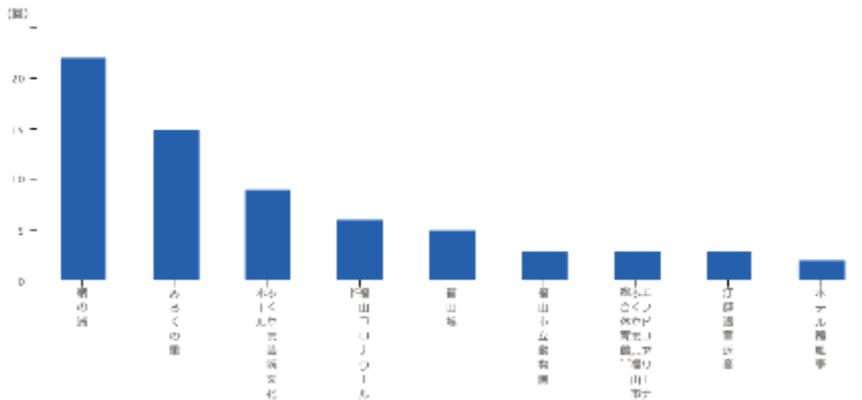
【注記】2019年から広島県のガイドラインに従い統計方法を変更。

(1) データからみる本市の現状と課題

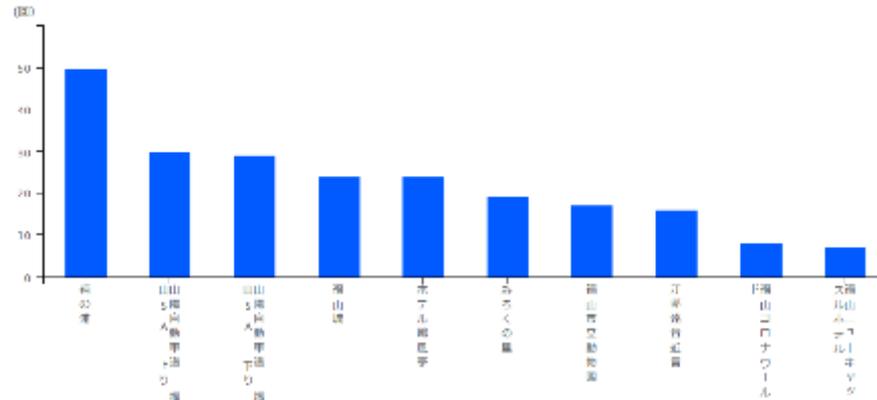
ウ. 観光の状況③

- 経路検索条件データについて見ると、福山市の目的地として最もよく検索されているのは、移動手段が公共交通、自動車ともに「鞆の浦」となっています。
- 公共交通では「鞆の浦」に次いで「みろくの里」「ふくやま芸術文化ホール」「福山コロナワールド」、自動車では「鞆の浦」に次いで山陽自動車道サービスエリア（上下）、「福山城」が多く検索される目的地となっています。

広島県福山市
2022年3月（休日）
公共交通



広島県福山市
2022年3月（休日）
自動車



【出典】 地域経済分析システムRESAS（株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」）

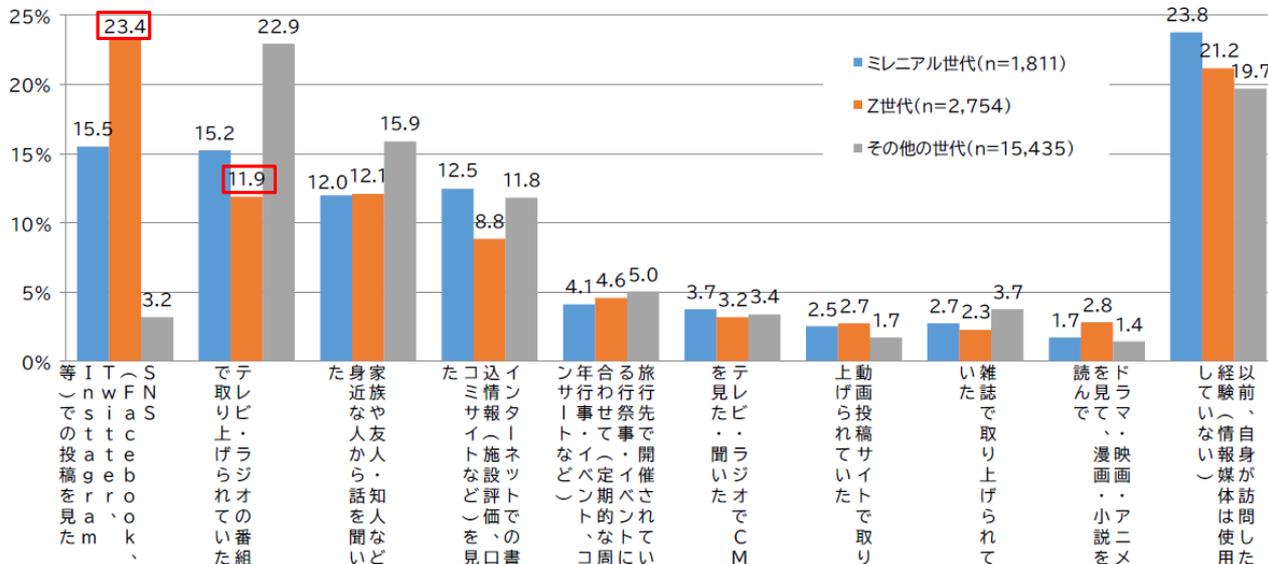
【注記】 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。

(1) データからみる本市の現状と課題

ウ. 観光の状況④

- 旅行を決めるきっかけとなる情報媒体として、特にZ世代では、「SNSでの投稿を見た」が「テレビ・ラジオの番組で取り上げられていた」を上回っており、これらの世代の誘客を図るにはSNSの活用が重要になっています。
- こうした状況をふまえ、福山市観光振興基本戦略では、SNSを活用した情報発信など観光のデジタル化を戦略の一つに掲げています。

世代別旅行先を決めるきっかけとなる情報媒体（ミレニアル世代・Z世代・その他の世代）



【出典】公益社団法人日本観光振興協会「令和4年度版 観光の実態と志向 ～第41回国民の観光に関する動向調査～」

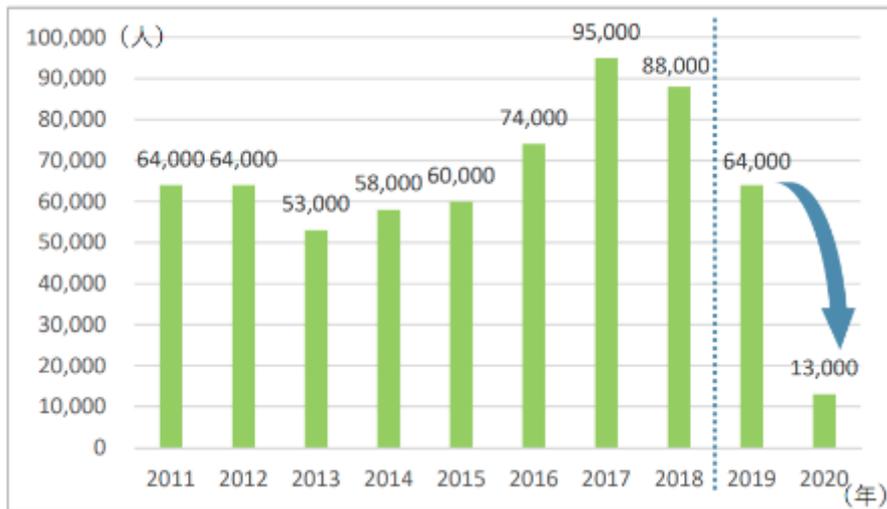
【注記】ミレニアル世代（1989年～1995年生まれ）とZ世代（1996年～2007年生まれ）を合計した上位10項目を掲載。

(1) データからみる本市の現状と課題

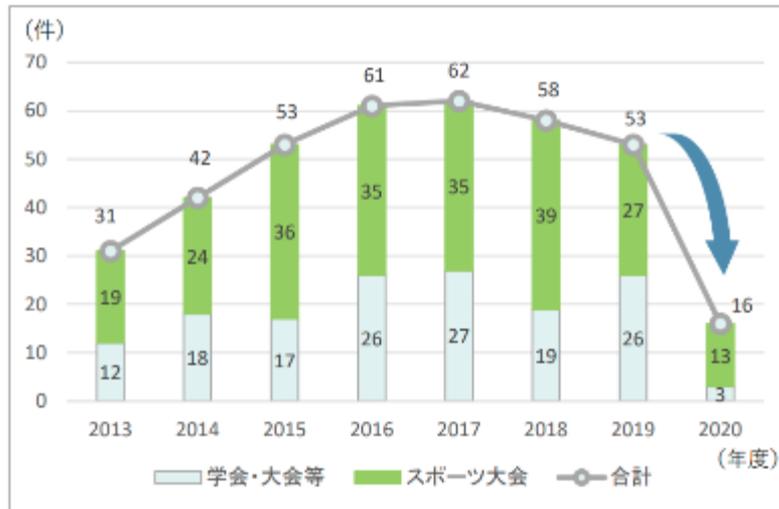
ウ. 観光の状況⑤

- 外国人観光客は、特にコロナ禍の影響が大きく、2020年は2019年と比べて約5万人減少し、従来の6分の1程度となっています。
- MICE開催件数についても、2020年は2019年と比べて37件減少するなど、開催件数が激減しています。
- 今後、都市ブランド力の向上による地域経済の活性化をめざすためにも、交通の結節点であり市内に多くのものづくり企業が集積する産業のまちという本市の強みを生かして、MICE誘致を継続して実施することが必要です。

外国人観光客数の状況



MICE開催件数



【出典】福山市観光振興基本戦略（「広島県観光客数の動向」（広島県（2018年まで）・一般社団法人広島県観光連盟）

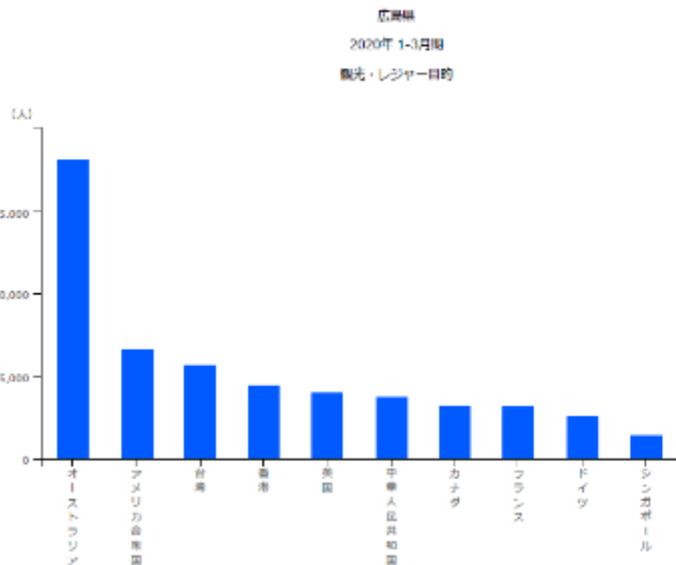
【注記】2019年から広島県のガイドラインに従い統計方法を変更。

(1) データからみる本市の現状と課題

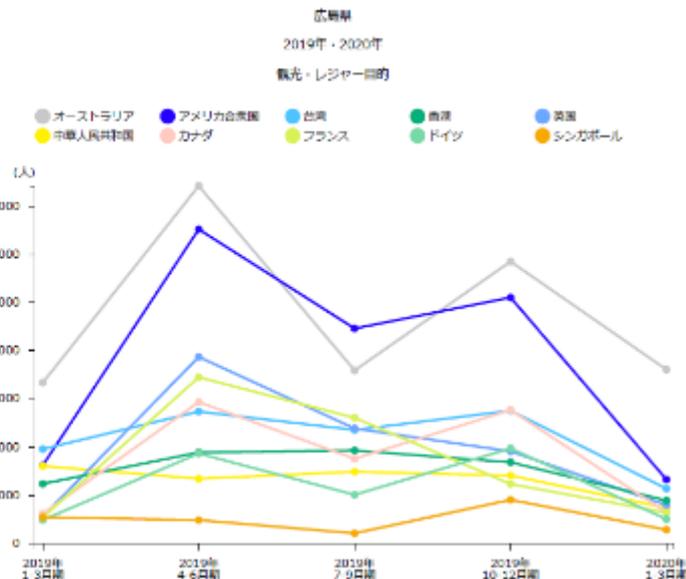
ウ. 観光の状況⑥

- 広島県全体のデータで、外国人観光客の国・地域別訪問者数を見ると、「オーストラリア」が最も多く、次いで「アメリカ合衆国」「台湾」「香港」「英国」が続きます。日本全体としては中国など東アジア圏からの外国人観光客が多いことを踏まえると、広島県は欧米諸国の観光客誘致に大きなポテンシャルがあることが考えられます。

国・地域別訪問者数



国・地域別訪問者数の推移



【出典】 地域経済分析システムRESAS（観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」）

【注記】 観光・レジャー目的の場合、「地域別の訪日外客数 = 地域別の訪問率【観光・レジャー目的】 × 訪日外客数 × 旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

(1) データからみる本市の現状と課題

エ. 広島県、せとうちDMO等における広域戦略①

- 広島県では、2020年10月に策定した「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の観光における分野別計画として、2023～2027年を計画年度とする次期「ひろしま観光立県推進基本計画」を策定しています（2023年2月現在、パブリックコメントを実施、完了）。
- 同計画案では、2027年のめざす姿として「広島を訪れる皆様が広島を好きになり、「他の人におすすめしたい」と思っただけの観光地となっている。」「環境変化に強い観光産業へ、そして県民一人一人が観光を支える一員となる。」を掲げています。
- 施策の方向性については、ビジョンの実行計画であるアクションプランに掲げる3つの取組の方向である「ブランド価値向上につながる魅力づくり」「誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備」「広島ファンの増加」を中心に進めて行くほか、観光産業の環境変化も踏まえて「3つの柱を支える土台作り」を加えて、あわせて4つの方向性を定めています。
- また、関係団体との連携に関しては、「県、市町、事業者などオール広島で、中国地方及びせとうちの観光をけん引し、地域全体の周遊を促進するよう、リーダーシップを発揮して、県域を越えた連携を進める必要があります。」としており、各エリアにおけるテーマごとの今後の方針や資源の掘り起こしなどを支援することを明記しています。

		課 題		
		観光消費額の増加	好循環を生み出す観光	オール広島の体制づくり
ブランド価値向上につながる魅力づくり	観光客のニーズを踏まえたロングテールな観光プロダクトの開発	観光客のニーズを踏まえたロングテールな観光プロダクトの開発		
		インバウンド需要を踏まえた持続可能な観光プロダクトの開発		
誰もが安心して楽しめる受入環境整備	観光客のニーズを踏まえたロングテールな観光プロダクトの開発	誰もが安心して楽しめる受入環境整備		
		質や満足度の高いサービスの提供に向けた観光事業者等のホスピタリティの促進		
広島ファンの増加	観光客のニーズを踏まえたロングテールな観光プロダクトの開発	誰もが安心して楽しめる受入環境整備		
		質や満足度の高いサービスの提供に向けた観光事業者等のホスピタリティの促進		
3つの柱を支える土台作り	観光客のニーズを踏まえたロングテールな観光プロダクトの開発	誰もが安心して楽しめる受入環境整備		
		質や満足度の高いサービスの提供に向けた観光事業者等のホスピタリティの促進		

(1) データからみる本市の現状と課題

エ. 広島県、せとうちDMO等における広域戦略②

- せとうちDMOは、2013年に瀬戸内を囲む7県（兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県）が合同で瀬戸内全体の観光ブランド化を推進するために結成された「瀬戸内ブランド推進連合」がさらに発展して創設されたDMOです。
- 瀬戸内ブランドを確立し、地域経済活性化や豊かな地域社会実現を目的として、瀬戸内の魅力を国内外に向けて発信し、来訪者（交流人口）の増加を企図しています。
- また、地域の観光地域づくりを推進するため、様々な支援サービスを提供しています。



SETOUCHI TRIP インバウンドマーケティングのプラットフォームとして、宿泊や体験予約機能も備えるWebサイト



瀬戸内Finder 瀬戸内ブランドの認知・浸透を効果的に展開する瀬戸内随一の観光情報メディア



瀬戸内ブランド登録制度 瀬戸内ブランドを体現するような商品・サービスを「瀬戸内ブランド」として登録する



せとうち観光活性化ファン 観光関連事業者による新規事業の創造や、既存事業の成長を資金面から支援



せとうちDMOメンバーズ 観光需要の高まりによる企業・団体のビジネスの拡大や持続的発展を応援する会員制度

(2) コロナ禍を経た国内外のマーケットやトレンドの変化

ア. 専門家ヒアリング

各マーケットトレンドに精通した7名の専門家に対し、ヒアリング調査を実施しました。

サステナブル



日本エコツーリズムセンター 共同代表 森 高一氏
環境教育、環境コミュニケーション分野のプロデューサー、プランナーとして、長年エコツーリズムに携わる。環境省「SDGs人材発掘事業における研修支援業務」へも専門家として参画。

地域コンテンツ開発



株式会社チェリー企画 桜井 篤氏
魅力発掘プロデューサー。元「じゃらん九州」編集長。佐賀市観光協会、魅力発掘プロデュース協会ほか千葉市観光プロモーション課課長などを経て、魅力発掘プロデューサーとしてそれぞれの赴任地で多数の体験型観光プランを創出。

コンテンツ開発・ガイド



(株)mint 石飛 聡司氏
広島を中心に、年間1,000人以上が来訪する人気サイクリングツアーsokoiko!を運営。自身が地域に徹底的に入り込みながら、観光コンテンツプロデュース、そしてそれを担う人材（ガイド・受入事業者）の育成カリキュラムの構築・育成に携わる。

リノベーション



株式会社サン・クレア 代表取締役 細羽 雅之氏
慶應義塾大学理工学部卒業後、日本アイ・ビー・エム株式会社にてエンジニア職に従事。25歳の時に破綻した実家の事業整理を通して、経営の本質は人であると体感。その後ホテルマネジメント事業を創業。2015年、株式会社サン・クレア設立。

観光地/DMO経営



大正大学 教授 村橋克則氏
じゃらん事業部長を務めたのち、全国旅館衛生同業組合連合会公認コンサルタント、中小企業庁地域資源活用アドバイザーなどを歴任。せとうち観光推進機構事業本部長着任の実績あり。現在は大正大学公共政策学科の教授を務める。

欧米豪インバウンド



インバウンドアドバイザー Baud Julie氏
フランス出身。名古屋在住。外国人向けゲストハウスの運営を手掛けながら、インバウンドコンサルティング会社にて勤務。現在はフランス人目線から各地でインバウンド観光のアドバイスを行う。

アジア系インバウンド



株式会社地域ブランディング研究所コンサルタント パク ソンヨン氏
韓国ソウル市生まれ。韓国漢陽大学観光学部卒業。立教大学大学院観光学研究科博士前期課程修了。2013年より4年間長崎県五島市役所にて国際交流員を務める。その後、現社に入社し体験商品の販売支援及びOTA連携を担当。

(2) コロナ禍を経た国内外のマーケットやトレンドの変化

イ. 専門家ヒアリングのまとめ

◆新型コロナウイルス感染症による影響

- 2020年（令和2年）1月に国内で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全国に拡大し、同年4月には緊急事態宣言が発令されるなど、社会・経済活動に大きな影響を与えた。移動の制限や感染症への不安の高まりが生じたことなどにより、国内旅行客は大幅に減少し、観光業は厳しい状況が続いていた。
- コロナ禍の現在においては、いわゆる「マイクロツーリズム」や「アドベンチャーツーリズム」をはじめとする、新たな観光スタイルが注目を集めている。
- 観光地には、感染症対策の徹底が求められ、安心・安全が「見える化」されていることが、観光地を決める際の重要な要素の一つとなっている。
- コロナ禍以降、旅行目的は「リラックス」や「理由がなくても旅行に行きたい」という割合が高まり、従来型の旅行スタイルへの揺り戻しが見られたが、徐々に地域の生活・文化に触れる旅行も復活しつつある。

◆旅スタイルの変化

- 観光スポットだけでなく、日常の風景が観光資源として評価されるようになっている。
- 多地域居住・テレワークが広がる中、滞在のあり方が多様化している。
- 団体での旅・人の多い旅行地を避ける旅のスタイルが浸透している中で、旅を通して心の浄化を求める「リトリート」「マインドフルネス」などといったキーワードが注目されている。
- 特に欧米豪客においては、「SBNR（Spiritual But Not Religious）」と呼ばれる「無宗教型スピリチュアル層」の増加により、心の豊かさを求める体験のニーズが高まっている。

(2) コロナ禍を経た国内外のマーケットやトレンドの変化

イ. 専門家ヒアリングのまとめ

◆観光に求めることの変化

- より個人の価値観や志向が反映された目的型の市場へと変化していったことで、観光資源と観光資源を繋ぐコンテンツ及び地域のコーディネーターが求められるようになっていく。
- 国内外のマーケットにおいて、地域の生活エリアでの交流や人とのふれあいに対するニーズが高まっている。
- 欧米を中心とした海外マーケットではサステナブル対応は標準的になり、地域の生活文化の持続可能性に寄与したマネジメントがなされた地域が目的地として選ばれる1つの大きな軸となっている。

◆観光地が求めることの変化

- 滞在時間と観光消費額を増やしていくため、地域内で組み合わせができるようなコンテンツづくりが必要。
- 地域資源に対してターゲットをセグメントし、受け入れ側により共感してくれる層を誘客していく流れがある。
- サステナブルの観点として、社会問題の解決につなげていく観点も留意していく必要があり、観光誘客によってその地域においてどのようなメリットがあるのかを明確にし、理解してもらうことが重要となる。
- 地域住民や若い世代などが頑張っているストーリーを過程として見せていくことで、“観光客を巻き込んだ地域づくり”の推進につなげることができる。

(2) コロナ禍を経た国内外のマーケットやトレンドの変化

まとめ

<国内マーケット（エシカル消費の加速）>

■シビックプライドの醸成

観光客が過剰に増加し、観光地の地域住民の生活や自然環境に悪影響を与える「オーバーツーリズム」は、日本語では「観光公害」とも言われるように、特にコロナ禍以前では各地で問題となっていました。SNS映えを目的に訪れる観光客が増えるだけでは、地域内での消費が拡大しないことから、「エシカル消費」（※地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動）を推進する動きが加速するようになりました。観光を通じた地域のファンが支える仕組みを作ることで、シビックプライド（都市に対する市民の誇り）の醸成に繋げていくことが、国内マーケットにおけるトレンドの1つになっています。

■地域のつながり・持続性への寄与

これまで（コロナ前）の国内マーケットの傾向として、「インバウンドに頼りすぎている」、「団体中心の受入れや新規客を獲得し続けることのみで、リピーター獲得による持続性への寄与がなされていない」といった課題が挙げられます。

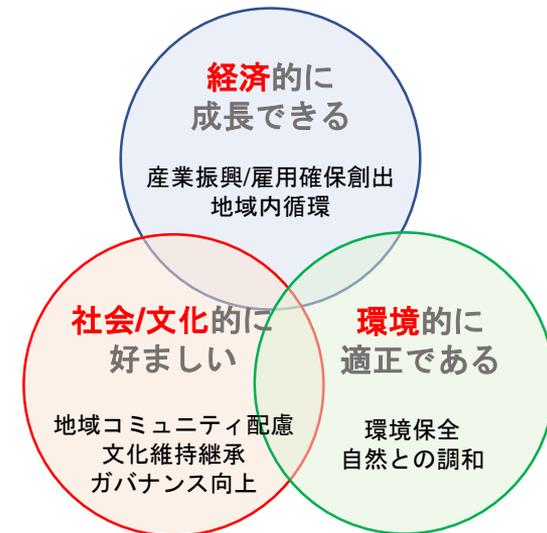
一方で新需要として、特定の地域を応援することでできるつながりや、居場所が欲しいといった需要が増加傾向にあり、それらには限られたお金を意義・意味あるものに消費したいという考えの浸透や、プロセスエコノミーの加速といった社会的背景があります。

<海外マーケット（SDGs対応の標準化）>

海外マーケットにおいて、特に欧米豪諸国では、「SDGs」の文脈で物事を見ることは当たり前となっており、観光においては、適切な対応ができない地域は目的地として選ばれないことも、一般的な考え方となっています。

具体的な観点として、「プラスチックや使い捨てへの改善がなされているか」、「未来へのビジョン・価値観への共感ができるかどうか」、「（少し高価であったとしても）ホンモノであるかどうか」といった部分が着目されるような社会へと変化しています。これらはデジタル技術の活用による情報発信や多言語対応、オンライン予約、人流データ分析等により、可能性を広げることができます。

地域の持続性に必要な要素



※参照：UNWTO資料

(2) コロナ禍を経た国内外のマーケットやトレンドの変化

まとめ

◇国内ニューマーケット（エシカル消費の加速）

シビックプライドの醸成

マイクロツーリズムで地元の魅力拡大

伝統工芸の活用

地域コンシェルジュの需要拡大

シニアの学び需要

リノベーション拠点への移住

地域のつながり・持続性への寄与

ワーケーション&ブレジャーの拡大

リトリート等自然プログラムの需要拡大

記念日等特別な旅の需要拡大

プロセスエコノミーの拡大

旅に求める要素が学び・自己変革

歴史・文化・伝統や地域コミュニティ応援需要拡大

◇海外マーケット（SDGs対応の標準化）

サステナブルツーリズム

アドベンチャーツーリズムの需要拡大

富裕層マーケットの拡大

滞在拠点の在り方の拡大

レスポンスブルツーリズム

デジタル技術の活用

(3) 現状を踏まえた強化の視点

<今後強化すべきポイント>

■ 地域資源の魅力をより深く知る → 「交流・学び」

本市における地域資源の魅力を生かした取組の状況を見ると、各エリアにおいて様々な体験コンテンツが提供されているものの、地域団体等による保全活動にとどまり、誘客という視点を持った取組に至っていないものも多く見受けられます。一方で、前項でも挙げられるように、各エリアで活動するプレイヤーは多くの人に、地域資源が持つ本質的な価値や魅力を知ってほしいという思いを持っており、観光客側には地域住民との交流に対するニーズが高まっています。

そのため、実際に地域資源に関連する取組を行う人や豊富な知識を持つ人などによるアテンドなど、地域資源に触れる際に学びの視点を盛り込むことで、単なる物見ではなく、その資源の裏側にあるストーリーや受入側の思いを感じながら、より深く地域資源の魅力を知ることができると考えます。

■ 既存コンテンツのブラッシュアップによる効果的な誘客 → 「体験」

現に提供されているコンテンツにおいても、ブラッシュアップの余地のあるものが存在しています。例えば、日本一の生産量を誇るデニムにおいては、備後紺から歴史を絡め、現代のデニムへの変遷伝えるストーリー編集や、それを伝えるガイドの育成などが挙げられます。新型コロナウイルス感染症の影響によるマーケットトレンドの変化を踏まえた既存コンテンツの磨き上げを行い、より効果的な誘客につなげていくことが求められます。

■ 共通項のある地域資源を繋ぐことにより、エリアでの滞在時間延長を狙う → 「周遊」

マーケットトレンドに即した活用を進めていく上で、各エリアの強みとなる資源を生かすという視点はもちろんのこと、個々の資源だけでなく、エリアを超えた複数の資源の一体的な活用という大きな枠組みで取り組んでいくことも必要な視点となります。エリアを超えて共通項のある資源同士をつなぐことで、個々の資源の活用にはない新たな視点での付加価値や、その資源間での周遊が生まれることで滞在時間が短いという本市の観光課題にも対応することができ、より効果的に地域資源の活用を進めることができると考えられます。

<まとめ>

これらのポイントと各エリアにおける地域資源の強みを結びつけることにより、「交流」「学び」「体験」を軸として、地域資源の活用を進め、本市全域で魅力的なコンテンツを造成し、周遊やインバウンドによる誘客につなげていくことが求められます。

(3) 現状を踏まえた強化の視点

■ ツーリズムによる地域づくりの可能性

国においては、持続可能な開発のための17の国際目標（SDGs）を掲げており、観光分野においても国連が2017年を「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在、サステナビリティ（持続可能性）が世界共通のキーワードになっています。

コロナ禍を契機とした観光ニーズの変化などを踏まえ、今後は、地域の文化や歴史遺産、自然環境を守りながら観光の質を保ちつつ、教育・福祉・コミュニティの活性化などの課題とつなげ、観光を手法に地域づくりに貢献することが重要と考えられています。

平成の大合併により、沼隈郡内海町・芦品郡新市町・沼隈郡沼隈町・深安郡神辺町と合併した本市は、市域を拡大する中で豊かな自然や歴史・文化、伝統産業など、各エリアで異なる特徴のある多様な地域資源を有する都市となっています。これまで、地域住民を中心とした保全活動によって、こうした地域資源の魅力や価値が守られてきましたが、人口減少・少子高齢化による担い手不足や、活動を維持・発展させていくための資金不足・ノウハウ不足などが課題となっています。

新たな観光トレンドを踏まえ、今後強化すべきポイントを前項に示していますが、市内外からの観光誘客を進めることは、コロナで落ち込んだ観光客数・観光消費額の回復や、本市の観光地としての魅力・認知度を高めるだけではありません。魅力ある地域資源に興味・関心を持って訪れる人や企業が地域住民等と交流し、より深く地域資源の魅力・価値を知ること、関係人口として継続的な関わりを持つことが期待できるとともに、地域住民としてもその地域ならではの資源の魅力・価値を再認識し、郷土愛の醸成につながることに期待できます。

そのため、下記に掲げる視点のもと、各エリアの強みとなる地域資源を生かした取組を推進することで、観光を切り口とした持続可能な地域づくりにつなげていく必要があります。

○ 強化の視点

新たな観光トレンドを踏まえ、市内で現在行われている取組のブラッシュアップを行いつつ、新たな視点やスキルを持つ市内外の民間事業者等の呼び込み・連携を促し、地域資源を活用した魅力的な体験や本質的な価値の学びを通じた訪問者との交流機会を生み出します。

また、共通項のある地域資源を物語でつなぎ、個々の資源にはない新たな魅力の創出や、更なる人や企業の呼び込みにつなげ、ツーリズムによる誘客を切り口とした関係人口の創出・新たな取組の創出の好循環を生み出すことで、持続可能な地域づくりをめざします。

(3) 現状を踏まえた強化の視点

総括

本市には、物流・繊維をはじめとした産業集積がある強みがありますが、その一方で、1次産業の担い手の高齢化等の地場産業の縮小・衰退が懸念されます。

こうした中、本市の年間観光客数は379万人と、県内では広島市、尾道市に次ぐ第3位の誘客数があり、大きなポテンシャルを秘めています。

ツーリズムによる誘客を切り口として、関係人口を創出することによって、持続可能な地域づくりの実現につなげていくことが必要です。

現在の本市の観光は、滞在時間が短く、一人あたり観光消費額が低いという課題があります。

そのため、コロナ禍を経て、国内外の観光・旅行マーケットが、「個人の価値観を大切に」
「地域の生活エリアでの交流や人とのふれあい」
「SDGs/サステナビリティへの配慮」
「マイクロツーリズム」

などを重視するトレンドに変化していることを受け、これに適応した滞在型観光誘客を推進する必要があります。

こうしたトレンドに対応するため、各エリアにおける地域資源の強みを結びつけ、「体験」「交流」「学び」を軸に地域資源を活用して、周遊やインバウンドによる誘客につなげていくことが求められます。

特に、（仮称）地域未来ビジョンの策定に向けては、これまで取り組んできた「観光振興基本戦略」の柱に加え、

- ・各エリアの特徴や強みとなる地域資源を生かした新たな魅力の創出に向けた地域や民間事業者等の連携の強化
- ・地域資源を共通する物語でつなぎ、エリア全体での誘客・周遊を促進
- ・体験・交流・学びを切り口に、観光での訪問者と地域との交流機会を創出し、関係人口として地域づくりに関わるきっかけづくりや、受入側の郷土愛を醸成

するなど、観光による誘客を通じて持続可能な地域づくりを実現する必要があります。

こうした観点から、次の第Ⅲ章では、その実現に向けた地域資源とその活動について整理・評価を行います。

Ⅲ. 本市の地域資源・活動の整理と評価

Ⅲ. 本市の地域資源・活動の整理と評価

狙い・位置付け

「Ⅲ. 福山市の地域資源・活動の整理と評価」では、各エリアが有する課題、地域資源など、よりローカル・ミクロな状況を詳細に分析します。

本調査では、各エリアの事業者・NPO・市民団体など、キーパーソンへのヒアリングを実施し、各々の取組や地域の現状・課題認識を共有していただきました。さらに、各エリアでワークショップを開催し、地元住民およびプレイヤーのみなさんと共に地域の強みや取組のアイデアなどを話し合いました。

また、本市が保有する地域資源について、エリア及びカテゴリ別にリストアップし、それぞれのエリアごとに専門家による視察・分析を行いました。これらの取組を通じて明らかになった各エリアの特徴や課題、活用すべき地域資源について、テーマ別にグループ分けを行います。

このグループ分けを踏まえ、こうした本市の地域資源をどのように地域創造、観光誘客等につなげていくかを検討します。

【「Ⅲ. 福山市の地域資源・活動の整理と評価」構成】

- (1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識
 - ア. キーパーソンヒアリング
 - イ. ワークショップ

- (2) 地域資源の整理と専門家による評価
 - ア. 地域資源の整理・評価の方針
 - イ. 各エリアの特長と代表的な地域資源
 - ウ. 各エリアの主な地域資源の一覧
 - エ. 専門家による評価

- (3) 地域資源の現状分析・評価

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

福山市にて事業又は地域活動等にて、それぞれの地域を特徴づける活動に携わる25名の方に、地域プレーヤーとしての活動や課題感などのヒアリングを行った。

- 対象者：25名（以下リスト）
- 実施日：2022年7月
- 手 法：訪問ヒアリング

1	中央 東部	岩瀬商店株式会社
2		備陽史探訪の会
3		福山わいん工房
4		株式会社サン・クレア
5		まちづくりサポートセンター
6	西部	佐野商店
7		蔵を保存する会
8	北部	篠原テキスタイル
9		別所砂留を守る会
10		HITOTIOITO
11		元地域おこし協力隊
12		カイハラ株式会社
13		芦田大谷砂留守り隊

14	南部	まるごと体験推進協議会
15		神勝寺禅と庭のミュージアム
16		鞆酒造
17		鞆の浦潮まちガイド
18		アリストぬまくま
19		福山水産振興協議会
20	北東部	葛原文化保存会
21		神辺本陣
22		御領の古代ロマンを蘇らせる会
23		堂々川ホテル同好会
24		廉塾ふれ愛ボランティア絆の会
25		神辺町観光協会

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇中央部・東部

現在の取組み	展望	課題
<p>[伝統ものづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染体験「ソメラボ」などにて地場モノづくり文化をアピールしている <p>[地域資源利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡：日本遺産を福山から！をモットーに、古墳ロードスタンプラリーや辻堂サイクリングコースなど歴史資源を生かした取組みを構想中 ・ ホテル：事業のプロデュースとして、客室に地元産プロダクトを並べるなど「福山のショーケース」を目指した、新ホテルを営業している ・ ワイン：西日本のグリーン車限定で車内販売するなど鉄道×ワインの販売に取り組んでいる <p>[住むまちづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な地域活動の参加/サポート 	<p>[伝統ものづくりの地域内連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「造船」「デニム」など、福山を代表する産業に事業者が乗っかっていけるような仕組みを作りたい <p>[地域資源の利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福山駅前にも史跡で憩う場所を作り、各地へ行くコースを開発したい ・ 全国山城サミットを誘致し、歴史資源を盛り上げたい ・ 体験を売りにしたコンテンツを作って誘客を図っていきたい <p>[市場形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福山の色の特産品を展開するなどしてファンを作り、リピーターが集うような場所を作りたい 	<p>[人材不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の推進力のある人が欲しい <p>[地域資源活用不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福山全域には眠っている資源がまだまだたくさんあると感じるが生かされていない。 ・ 地元プロダクトの問い合わせはきているが、販売のマーケットが築けていない <p>[地域の連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域誘客のため体験に重点をおきたいが、事業者と一緒にした体験作りの必要性を感じる ・ 地元組織において閉鎖的な文化も多く残ると感じる。人と違う事をしていると冷たい目で見られてしまう

まとめ

- ・ 福山市の玄関口エリアとして、歴史・文化・食・自然など市を象徴する地域資源において、地域プレーヤーの活動/取組がみられる。
- ・ 地域資源の特産品としての活用や、観光活用として体験コンテンツ化を行い、市の魅力をより多くの人に知ってもらいたいと願う意見が多くあった。
- ・ 不足する人材の育成、組織間のつながりの課題も上がっており、市全体でこうした体制づくりを進めることが必要。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇西部

現在の取組み	展望	課題
<p>[伝統ものづくり] ・ 蘭草の栽培：栽培農家が途絶えた今、畳文化の継承のため、手植え・刈り取り等の体験を学生やボランティアと共にしている</p> <p>[まちの歴史的建築物の活用] ・ 250年前に建てられた蔵を活用し「コンサート」「お話し会」など蔵にマッチしたイベントを開催</p>	<p>[伝統ものづくりの継承] ・ 備後畳表の畳縁にデニム素材を使用するなど、福山市内の特産品とコラボした製品をつくるなどにより、地元の商品の価値を高めたい</p> <p>[まちの拠点作り] ・ 蔵を、福山大学の学生がやりたいことを披露する場にするなど松永の情報発信の拠点として活用したい</p>	<p>[地域資源の発信/認知不足] ・ 繊維業界に盛り上がりが見られるが、備後畳表の業界はあまりフォーカスされていない。備後畳表の需要・認知が高まらないと新規参入が厳しい</p> <p>・ 地域の活動の発信は個人の力では限界があり、福山市からもっとPRしてもらえるとよい</p>

- まとめ**
- ・ 西部には、備後畳表や下駄、琴の生産など、現在、担い手の減少傾向にある伝統ものづくりが地域の特色ある産業となっており、これらを後世に残すための取組が行われている。自分たちが引き継ぐべき伝統技術や魅力を発展させていきたいという強い意向があるものの、認知不足や支援不足により、伸び悩んでいるとの指摘がある。
 - ・ 地元にも長く存在する蔵を活用したまちづくりを図るプレイヤーが存在する。こうした場所を媒介とし、交流や学びの場、PRの場を作ることへの意見も出ている。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇北部

現在の取組み	展望	課題
<p>[デニム産業の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 繊維産業にてオープンファクトリーを実施 常石の溶接現場のデニム作業着を1800着回収し、リメイク製品として販売している 小学生を対象にデニム工場見学&染色体験の実施やベラピスタやアンカーホテルとコラボし、ベッドや羽織などの素材をデニムにするなどの活用を展開している PARIGOT、サッポロ黒ラベルなど異業種の大手メーカーとのコラボを実現 <p>[地域社会/移住]</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家：空き家バンクをサポートしている <p>[歴史資源の保全活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂留：歴史的価値のある砂留を後世に守る活動を行っている。整備保存作業や見学会、バードウォッチングなどを実施 	<p>[デニムの産業観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「産業」を観光にしていきたい インバウンドをターゲットに備後絣の歴史～デニムのストーリーをみせ、物販に繋げたい ツアーコンテンツをもっと活発にしていきたい <p>[プロダクト活用/活動拠点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 親しみを持ってもらい、デニムの可能性を広げたい 制作活動ができる拠点（工房）や、人が集まる場所を作りたい <p>[住まいづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家：空き家バンクを生かした移住者の増加 <p>[歴史資源の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂留：ツアーコースをつくりたい 	<p>[資金不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンファクトリー：非営利目的組織のため資金調達必要 砂留：保存活動における資金が不足している <p>[希少産業の後継者不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> 備後絣：人材不足のため技術がなくなってしまうそう。手作業が多いので量産できない <p>[認知不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> 福山市内の企業や産業の認知が、県内外にまだまだ広がっていない <p>[地域の連携不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住者が地域に馴染みにくい 地域ごとのまとまりが難しく、プレイヤー不足

- まとめ**
- 北部を拠点とするものづくり企業が多く、特にデニム製造に関するプレーヤーから地場産業活用の意見が多く集まった。
 - デニム産業においては商品開発だけでなく、観光活用やオープンファクトリー、他業種企業とのコラボなどの積極的な取組があり、高い技術力を有するが、地場産業の維持には同時に資金面や人材面での不安も挙がってきている。
 - 発展を後押しするための認知活動・地域連携の不足が課題として挙がっている。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇南部

現在の取組み	展望	課題
<p>[漁業支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漁師ファースト」がモットーに漁師の支援（浜売り・養殖等）（福山水産振興協議会） ・漁協と協力しながら福山市唯一の道の駅を運営（アリストめまぐま） <p>[海エリア活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験コンテンツ、民泊、修学旅行誘致等を内海町、沼隈町を中心に「海」に絡めたまちづくりを推進（まるごと体験推進協議会） <p>[陸地エリア活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お寺にて、宿泊、禅体験、ワーケーションを行っている（神勝寺禅と庭のミュージアム） 	<p>[漁業支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分で売る努力」を促進 <p>[海の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内海のイメージ戦略を考え、販売力につなげることで「豊かな海」を作っていきたい ・漁師の産直をサポートし、道の駅「アリストめまぐま」を福山市内の食における中心スポットにする <p>[鞆の浦観光の磨き上げ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドの育成 ・鞆の浦観光を「常夜灯」「対潮楼」だけでなく、もっと「スピリチュアル」「日本的なもの」、「ホンモノの町」といった観点でアピールする ・寺院や美術館の鑑賞だけでなくライトアップやお茶会・陶芸教室などコンテンツも開催したい 	<p>[自然環境の変化]</p> <p>海水温上昇の影響で、漁に出る日が1/3に減少するなど魚が取れなくなっている</p> <p>[市場規模の減少]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が減っている ・鞆の浦の平日客が乏しい <p>[地域の連携不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での横の繋がりが乏しい状況 ・内海での体験、民泊等の誘客に苦心。地域の協力が欲しい <p>[方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういうまちづくりをしていくかを示してほしい

まとめ

- ・瀬戸内海に隣接するエリアのため、**漁業**や**観光**に関わる地域プレーヤーが多く存在する。
- ・海水温上昇の環境変化もあるなか**漁業維持**のための**漁協直結の道の駅**や**浜売り販売**等の取組が行われている。
- ・海を観光利用し、体験コンテンツや民泊により誘客を図る新しい取組も行われている。
- ・鞆の浦での**観光客の減少**が懸念されている。現状を変えるための**連携**や**新たな方向性**を求める声もあった。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇北東部

現在の取り組み	展望	課題
<p>[地元地域資源の保全/PR活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廉塾のボランティア活動、観光ガイドや絵画展、菅茶山の誕生祭のイベント等を実施している(廉塾ふれ愛ボランティアの会) ・ ホテルが生息する為の環境保全を行っている ・ ゴミの不法投棄を防ぐためヒガンバナの植栽をしている(堂々川ホテル同好会) ・ 史跡めぐり(観光ツアー)や、コロナ後は体験ツアーを実施。(神辺町観光協会) ・ 遺跡のスタンプラリーや散策ガイドの実施、来訪客に向けた環境整備(御領の古代ロマンを蘇らせる会) 	<p>[地域活動の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神辺町の資源を色んな形で連携して、共同で活用していきたい ・ ヒガンバナを中国地方NO.1にしたい <p>[観光活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡を活かした体験や、菅茶山の教えに興味があるコアなファン向けの学びや体験などのプログラムを作りたい ・ 砂留などの地域の史財を日本遺産に登録したい。また、遺跡発掘の成果を展示する場所を持って客を巻き、ストーリーを知ってもらいたい 	<p>[人材不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者不足、ガイドの高齢化 <p>[地域連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史関連の福山市内にある他の団体と交流がない ・ 資金源をどう担保するか <p>[認知/集客不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種マスコミとどう連携させるかが大事と感じる ・ 全体的に集客力が弱い ・ 福山市内に住んでいる人でも、廉塾や菅茶山文化が知られていない <p>[資金不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営は会員の会費&福山市の補助金で成り立っており、資金の問題がある ・ 史跡に関する展示施設や、来訪客に向けた看板案内などが不足している

- まとめ**
- ・ 城下町として残る歴史的な史跡や、辻堂・古墳・砂留の遺跡などが豊富にあり、歴史・自然資源の保全に関わるプレーヤーが多く、ボランティア活動、ガイドを伴うツアーやイベントなど、様々な取組が行われている。
 - ・ 地域にて地道な活動を行う現状から発展させるべく、観光活用、認知向上を目指す声が多く聞かれた。
 - ・ 課題としては、活動を維持するための資金や人材の不足、認知や発信が不十分であり、地域資源や活動を見せる展示の場がないという声もあった。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

ア. キーパーソンヒアリング

◇総括

キーパーソンの状況

- ・各エリアの特徴や個性を活かした地域資源に基づく事業又は地域活動が豊富にあり、それぞれに熱心に関わるプレーヤーが存在する。

現在の取組

- ・北部、西部では備後畳表や備後紺など伝統ものづくりの承継、北東部では歴史資源の保全活動、南部においては景観や文化を観光への活用や漁業の保全活動などが顕著にみられた。

今後への展望

- ・地域資源や現在の取組を発展させるために、発信の強化や観光への積極的な活用、価値を高めるための地域資源の連携などを行い、もっと市外に魅力を知らしめたいという意見が多く挙がった。

現在の課題

- ・展望に対しての現状課題は、人材不足、資金不足、発信不足などが多く挙がっている。
- ・中には市としての大きな方針を求める声もあり、課題を解決していくために市としての大きな考え方や方向性を示し、市内全体の取組としてアクションしていく必要がある。

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

イ. ワークショップ

市民を対象に募集を行い、ワークショップを開催した。参加者の所属する地域からグループ分けを行い、グループディスカッションをするなかで、地域資源の活用をテーマに、地元の地域資源の洗い出し・エリアの強みを活かした活用案を発案・議論を行った。

- 実施日：2022年11月16日、17日
- 開催場所：鞆公民館、かなべ市民交流センター、オンライン(Zoom)、北部市民センター、沼隈サンパル
- 参加者数：合計50名

	グループA 中心エリア：南部	グループB 中心エリア：南部、西部
エリアの強み	鞆の浦エリア ・町並み ・鯛網などの行事	・景色、ロケーション ↳海、歴史的な建物 観光客の目当てになる ↳寺社仏閣を含めた景色を「守りながら残していく」ことが大切 ・気候が良い ・非日常が味わえる ・ホンモノの歴史・文化
取組みアイデア	・鞆の浦における路地の活用（小豆島や尾道のように） 何か発見ができると楽しい街歩きにつながるのではないかと ・南部にある宿をアピール ・三暁のフライパン体験などを絡めて滞在性向上をめざす	・周遊、サイクリング ・鞆のおばあちゃんとの交流など「鞆の日常体験」 ・保命酒を活かした「酒まつり」 ・ガイドさんの活用

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

イ. ワークショップ

	グループC 参加者のエリア：北部	グループD 参加者のエリア：北東部	グループE(オンライン) 参加者のエリア：エリア特定なし	グループF(オンライン) 参加者のエリア：南部（鞆の浦）
エリアの強み	<ul style="list-style-type: none"> ・山野、広瀬エリアの自然資源 ・デニム（繊維産業） ・史跡、歴史 	<ul style="list-style-type: none"> ・神辺の街並み（町屋が魅力的） ・井原鉄道 ・史跡：砂留、古墳 ・廉塾 ・神辺本陣 ・葛原邸 	<ul style="list-style-type: none"> ・食：くわい、食用バラ ・芦田川沿いの風景 ・福山市立動物園 ・富谷公園 ・わくわく市 ・駅周辺&鞆の浦ホテル ・史跡：別所砂留、大谷砂留 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆の浦 ↳ロケ地「崖の上のポニョ」、 ・仙酔島 ・田尻町 ・内海町 ・沼隈 ・みろくの里 ・田尻 ・鞆の浦山側トンネル (2023年度完成予定)
取り組みアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・山の資源を生かした空き家活用、廃校活用 ・デニム工場見学などの情報発信を促進 ・町の歴史を発信 ・ファッションが好きな人の移住促進 ・ローカルな環境を活かした自転車の大会や宿泊ツアー ・福塩線の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・八丈岩のロッククライミング ・堂々公園の砂留でロッククライミング ↳現在、砂留の掃除している人をモデルに考案 ・古墳巡り ・菅茶山の詩を聞きながら巡るツアー ・神辺の町並みを再現したVR体験 ・葛原邸の音楽・風景を活用したテントサウナ体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロード×福山の資源を掛け合わせたアイデア ↳川沿い・線路沿い×サイクリング ↳福山市立動物園・富谷公園×サイクリング ・農業にフォーカスした体験コンテンツ ↳空き家を活用した農業体験 ↳くわいの収穫体験&農泊 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼隈・鞆の浦・田尻の三角地帯の連携&魅力UP ↳鞆の浦の「宿泊者」増加へ ・南部エリアを「自然が楽しめる地域(海中心)」として発信 ・田尻町の花・ばら・果物等の「地域資源」や田尻町で生まれた「アイデア」を活用すればいいのではないか

(1) 地元事業者・関係者による現状と課題認識

イ. ワークショップ

ワークショップ当日の様子

◇ 鞆公民館



◇ かなべ市民交流センター



◇ 北部市民センター



◇ 沼隈サンパル



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

ア. 地域資源の整理・評価の方針

①地域資源・活動の整理と評価にあたって、まず地域資源のリストアップを行いました。

その際、地域資源を次の分類に整理しました。

- ・自然資源
- ・都市資源
- ・産業資源
- ・文化資源
- ・施設資源
- ・体験・コンテンツ資源

②各エリアについて、専門家による現地視察及び専門家へのアンケート調査を行い、地域資源に対する評価を行いました。

その際、専門家には、エリア別に次の観点から意見・評価をいただきました。

- ・核となる地域資源のピックアップとその根拠
- ・専門家の意見
- ・強みとなる地域資源

【現地視察】

- ・桜井篤氏（株式会社チェリー企画）
- ・村橋克則氏（大正大学教授）
- ・Baud Julie 氏（インバウンドアドバイザー）

【アンケート調査回答】

- ・森高一氏（日本エコツーリズムセンター共同代表）
- ・石飛聡司氏（株式会社mint）
- ・細羽雅之氏（株式会社サン・クリア代表取締役）
- ・パク ソンヨン氏（株式会社地域ブランディング研究所コンサルタント）

(2) 地域資源の整理と専門家による評価

イ. 各エリアの特長と代表的な地域資源

【北部】

古代と現代が共存する歴史探訪&豊かな自然・動物とのふれあいの里

- 代表的な地域資源
- ・ものづくり（繊維産業）
- ・古墳、砂留
- ・福山市立動物園

【西部】

伝統文化を継承する学びのフィールド

- 代表的な地域資源
- ・ものづくり（備後畳表、下駄）
- ・ゲタリンピック

【南部】

海を臨むレジャーと癒やしの交流スポット

- 代表的な地域資源
- ・鞆の浦
- ・海洋資源
- ・ものづくり（鍛造技術など）

【北東部】

城下町～宿場町の流れをくむ武家文化を味わう街

- 代表的な地域資源
- ・文化資源、施設
- ・ローカル鉄道（福塩線、井原鉄道）
- ・酒蔵（天宝一）

【中央・東部】

福山を代表する観光、芸術・文化、交流、産業の中心地

- 代表的な地域資源
- ・福山城
- ・ばら（ばら公園など）
- ・ものづくり（JFEスチール工場など）
- ・文化、芸術（博物館、美術館）
- ・くわい



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

ウ. 各エリアの主な地域資源の一覧

	中央・東部	西部	北部	南部	北東部
自然資源	ぼら公園 緑町公園 中央公園	本郷憩いの森キャンプ場 竜王山	大滝神社と名水 藤尾の滝 蛇円山 ほたる	瀬戸内海国立公園 仙酔島 走島	堂々川 ほたる 八丈岩
都市資源	総合体育館前公園 かわまち広場	松永クリーク 松永グリーンパーク	山野農村公園 山野峡県立自然公園 富谷公園 福塩線	海洋アクティビティ	堂々公園 吉野山公園 福塩線 井原鉄道
産業資源	うずみ くわい 特産ワイン(福山ワイン工房) JFEスチール工場	松永下駄 備後畳表 (い草) 富有柿 いちじく	繊維産業 グリーンアスパラガス 山野峡ワイン 食用バラ	瀬戸内の地魚 沼隈ぶどう 田尻の杏・オリーブ 保命酒 santo	桃 天竺一 福山琴
文化資源	福山城 明王院 広島県立歴史博物館 ふくやま美術館 ふくやま文学館 明王院五重塔 俄山弘法大師	ゲタリンピック 東村町かかし祭り 本郷神楽 本荘神社・潮崎神社	けんか神輿 素戔鳴神社 備後一宮吉備津神社 別所砂留 芦田大谷砂留 二子塚古墳 山野民俗資料館	鞆の浦の町並み お手火神事 能登原とんど 沼名前神社 太田家住宅 阿伏兎観音	廉塾ならびに菅茶山旧宅 神辺本陣 葛原家住宅 堂々川砂留 御領古墳群 四つ堂 (辻堂・憩亭) 神辺城跡
施設資源	明王台展望台 福山市人権平和資料館 福山自動車時計博物館 喜多流大島能楽堂 エフビコアリーナふくやま 次世代エネルギーパーク iti SETOUCHI	松永はきもの資料館 骨董&ギャラリイ喫茶 蔵 園芸センター ふくやまふれ愛ランド 広島県福山少年自然の家	福山市立動物園 芦田わくわく市 信岡フラットミュージアム 貝原歴史資料館	いろは丸展示館 神勝寺禅と庭のミュージアム クレセントビーチ 道の駅アリストぬまくま 平家谷しょうぶ園 ツネイシしまなみビレッジ 内海ふれあいホール	菅茶山記念館 神辺歴史民俗資料館

(2) 地域資源の整理と専門家による評価

ウ. 各エリアの主な地域資源の一覧

	中央・東部	西部	北部	南部	北東部
体験コンテンツ	城泊 くわい収穫体験 次世代テクノロジー体験 藍染体験 エフピコ工場見学	い草植付け体験 円座づくり 本荘重政史跡散策会 自然ゲーム・クラフト体験	砂留見学 古墳巡りツアー 藍染体験 縫製技術講座 デニム工場見学 ぶどう収穫・ワイナリー見学 けんか神輿見学 キャンプ	民泊体験 クルージング・カヌー 砂風呂・江戸風呂体験 漁業体験（底曳・のり養殖等） 鍛造体験 座禅体験 靱潮待ちガイドツアー 靱竜馬コースツアー キャンプ スポーツ合宿	古墳散策 古墳ロードスタンプラリー 山陽道歴史巡りウォーク 史跡ガイド案内ツアー ワイン列車

(2) 地域資源の整理と専門家による評価

Ⅰ. 専門家による評価

	中央・東部
①核となる地域資源のピックアップとその根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・中央部には、「福山城」や「ばら公園」など福山市の観光を象徴する資源がある。 ・また、歴史・文化資源も豊富に存在し、国宝である明王院やTVで取り上げられ話題となった良神社など、比較的知名度の高い歴史的な観光スポットがある。芸術・文化に関する施設も多く、美術館・博物館など文化資源に関連する施設が集まっている。 ・ばら祭やあしだ川花火大会などの大型イベントも開催され、人の流れが活発なエリアである。 ・日本一の生産量を誇るくわいの産地であり、くわいを使った様々な商品も開発されている（くわいちップスなど） ・新たなまちづくりの動きが活発で、福山駅周辺の活性化をはじめ、新しい交流施設iti SETOUCHIや中央公園のPark-PFI導入など、民間事業者と連携した取組が活発に行われている。 ・備後圏域の拠点となる複合スポーツ施設であるエフピコアリーナが2020年にオープンし、公園や広場も併設されていることから、市民の憩いの場として利用されている。 ・日本の大手鉄鋼メーカーである「JFEスチール」の大型工場では、工場見学も受け入れており、福山市の工業を伝える役目を果たしている。また、次世代エネルギーパークでも次世代のテクノロジーを体験することができる。 ・龍王神社展望台からはJFEスチールの工場を一望でき、そこからの工場夜景も人気となっている。
②専門家の意見	<p>注目度の高いキーワード：福山城の活用、バラ、芸術・文化、くわい</p> <p>評価の高い地域資源：福山城などの文化資源、バラ、工場見学</p> <p>現状課題：ばらや福山城を中心とした、歴史的背景を踏まえたストーリーづくり</p>

強みとなる地域資源

- ・福山城
- ・バラ（ばら公園など）
- ・ものづくり（JFEスチール工場等）
- ・芸術・文化（博物館、美術館など）

テーマ別の取組案

- ・歴史的建造物の活用
- ・農作物や食を中心とした滞在促進
- ・福山城、バラのブランディング強化
- ・ものづくりをテーマにした産業観光



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

Ⅰ. 専門家による評価

	西部
①核となる地域資源のピックアップとその根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸センターや本郷憩いの森キャンプ場など自然を楽しむことのできる環境や、松永湾を一望できる緑陽公園など、海と山の自然を身近に感じることができる。 ・木材港として有名な松永港があり、下駄の材料の丸太材を川を利用して運んでいた羽原川沿いの特徴ある家屋群や松永クリークなど、過去の暮らしを伝える歴史・文化の資源が残っている。 ・地域の特産品である下駄の文化が根付き、下駄の歴史を伝える資料館や、下駄をテーマとしたお祭り「ゲタリンピック」が開催されている。また、備後畳表の継承のため、い草の栽培が本郷町の圃場で行われている。 ・福山大学では、ワインや海洋研究、備後畳表など、地域資源に関連する様々な取組が行われている。 ・八幡神社や潮崎神社、高諸神社など地域に根付いた神社があり、横町荒神社（現本郷八幡神社に遷座）の祭礼では荒神神楽といった伝統芸能も現代に引き継がれる。 ・「骨董&ギャラリー-喫茶 蔵」は、200年以上前の蔵を改装したお店でcafeを経営するなど、蔵を保存する会の活動がみられる。また、特産品（備後柿渋・備後畳表など）の復活や令和歳時記、現代絵師による年中絵巻の作成など、歴史・文化の継承や西部エリアの魅力発信に取り組んでいる。
②専門家の意見	<p>注目度の高いキーワード：伝統ものづくり、自然資源、大学</p> <p>評価の高い地域資源：畳、下駄の伝統ものづくり、ゲタリンピック</p> <p>現状課題：地域のコーディネーター不足、下駄や畳文化のインバウンドへの対応</p>

強みとなる地域資源

- ・ものづくり（下駄・畳表）
- ・ユニークな祭り（ゲタリンピック等）

テーマ別の取組案

- ・ものづくり体験、交流プログラム
- ・自然資源を絡めた滞在促進



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

Ⅰ. 専門家による評価

	北部
①核となる地域資源のピックアップとその根拠	<ul style="list-style-type: none">・豊かな自然があり、滝や峡谷、キャンプ場など自然を楽しむ場所が豊富にある。・古墳や砂留などの歴史的な価値のある資源が地域住民の手で守られており、古代～中世～江戸時代までの人々の暮らしを知ることができる。歴史・考古学ファンの関心が高い寺社仏閣などの文化財が豊富にあり、けんか神輿やほら吹き神事などの祭りが行われており、素戔鳴神社では栈敷席を設置し、観光コンテンツとしての活用の動きも見られる。・市内唯一の動物園や、併設する公園などの子ども向けの施設があり、家族連れで訪れることのできる場所がある。・日本一の生産量を誇るデニムの産地として、各社の繊維工場やギャラリーが集積しており、デニム事業者同士の連携などにより様々な体験コンテンツが提供されている。・山野町ではぶどうの栽培、ワイン製造が行われており、ぶどうの収穫からワインづくりまでの体験ができる。
②専門家の意見	<p>注目度の高いキーワード：デニム、砂留、豊かな自然、動物園</p> <p>評価の高い地域資源：福山市立動物園、デニム</p> <p>現状課題：デニム産業の認知度向上、エリア内に広がる豊かな自然資源の活用</p>

強みとなる地域資源

- ・ものづくり（デニム）
- ・砂留
- ・豊かな自然（山野町等）
- ・市内唯一の動物園（福山市立動物園）

テーマ別の取組案

- ・繊維産業を中心としたプログラム
- ・豊かな自然を活かした滞在促進
- ・歴史ある遺跡を巡るプログラム
- ・農作物や食を中心とした滞在促進



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

Ⅰ. 専門家による評価

	南部
<p>①核となる地域資源のピックアップとその根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潮待ちの港として栄え、豊かな文化を育んできた鞆の浦は、当時の町並みや常夜灯など情緒あふれる景観が残り、市内で最も有名な観光地となっている。また、国名勝「鞆公園」の一部に含まれている仙酔島には、日本で唯一ここにしかない五色岩があるとともに、旧国民宿舎の利活用が検討されており、今後の誘客に期待が出来る。 ・宿泊施設や海水浴場、キャンプ場といった自然資源を生かした施設も豊富で、レジャー客も多い。 ・ツネイシしまなみビレッジ、神勝寺禪と庭のミュージアム、みろくの里といった子どもから大人まで楽しめる誘客の拠点となり得る施設もある。 ・錨作りの鍛造技術が伝わる鞆鉄鋼団地では、インテリア分野への展開や鍛造体験など新たな取組が行われている。 ・ぶどう、オリーブなどの農産物が栽培されるとともに、瀬戸内海の多島美の景観や海産物なども豊富であり、陸と海の魅力を楽しむことのできる資源が豊富にある。 ・全国でも珍しい漁師が直接魚を出荷する福山市唯一の道の駅「アリストめまくま」は、鞆の山側トンネルの開通によって沼隈半島～鞆の浦の周遊性向上が期待される中で、誘客の拠点となる可能性がある。
<p>②専門家の意見</p>	<p>注目度の高いキーワード：鞆の浦、リトリート、坂本龍馬、みろくの里、歴史</p> <p>評価の高い地域資源：鞆の浦、マリナクティビティ、漁業、神勝寺禪と庭のミュージアム</p> <p>現状課題：各体験のストーリー設計、鞆の浦を含めたエリア一帯での過ごし方の訴求が弱い、インバウンド受入体制</p>

強みとなる地域資源

- ・鞆の浦の町並み
- ・リトリートスポット（仙酔島、神勝寺など）
- ・海洋資源（地魚・アクティビティ）
- ・市内唯一の道の駅（アリストめまくま）
- ・ものづくり（鍛造技術）

テーマ別の取組案

- ・ものづくり体験、交流プログラム
- ・瀬戸内海や離島を活用した滞在促進
- ・道の駅を活用したプログラム
- ・伝統的な食を中心としたプログラム



(2) 地域資源の整理と専門家による評価

Ⅰ. 専門家による評価

北東部	
①核となる地域資源のピックアップとその根	<ul style="list-style-type: none"> ・中世から栄えた城下町文化のほか、江戸時代に宿場町であったため、武家文化が今も根付いている。菅茶山記念館ではかつての文化人が残した作品を見ることができる。神辺町観光協会を中心に、エリア内の歴史資源を巡るガイドツアーが実施されている。 ・砂留や古墳群などの歴史・文化遺産が地域住民によって守られており、堂々公園では砂留のほか彼岸花やホタル観賞のために多くの観光客が訪れている。 ・旅人の休憩所として初代福山藩主 水野勝成の命令によって整備されたといわれる辻堂が多く存在している。 ・神辺町には、福山市唯一の酒蔵である「天寶一」がある。 ・福塩線や井原鉄道といったローカル鉄道が走っており、利用者増加のために、ワインやイルミネーション、デジタルスタンプリリーなどと掛け合わせた取組が行われている。
②専門家の意見	<p>注目度の高いキーワード：ローカル鉄道、文化財</p> <p>評価の高い地域資源：砂留・古墳、辻堂、天寶一、ローカル鉄道</p> <p>現状課題：滞在時間の延長につながる地域内での連携、移動手段の確保</p>

強みとなる地域資源

- ・文化財（廉塾ならびに菅茶山旧宅等）
- ・砂留、古墳
- ・福塩線、井原鉄道
- ・市内唯一の酒蔵（天寶一）

テーマ別の取組案

- ・歴史的建造物を活用したプログラム
- ・歴史ある遺跡を巡るプログラム
- ・ローカル線を活用したプログラム



(3) 地域資源の現状分析・評価

総括

福山市内の地域資源の優位性・潜在性の観点から総括します。

<地域資源の優位性・潜在性>

■ 伝統ものづくりが根付いており、関係者の変革意欲も旺盛

本市の各エリアにおける地域資源に対して多角的な視点でアプローチをしていく中で、繊維産業に代表されるような“伝統ものづくり”が各エリアの特徴的な資源になっており、「ものづくりの町」である本市の特徴を見て取ることができます。下駄、畳表、鍛造といった伝統を受け継ぐものづくりと、備後鞆から発展したデニム産業、備後地域の産業の中心とも言えるJFEスチールの大型工場などの伝統を活かした技術が市内に点在しています。

また、デニム産業に関わるプレイヤーは複数企業が連携しながら、工場見学や担い手の育成プログラムを実施している他、畳表（備後表）に関わるプレイヤーはい草の栽培から一貫して行うことによる地域ブランドの構築に挑戦している等、変革意欲を持った取組が見られます。

加えて、繊維工業だけでなく、プラスチック製品製造業、木材・木製品製造業などの製造業も特化係数が高く、ものづくり産業は重要な位置付けであることが分かります。

■ 豊かな自然と寺社仏閣を活かしたリトリート滞在の拠点

本市には、豊かな自然があり、滝や峡谷、キャンプ場など自然を楽しみながら滞在できる場所が豊富にあります。

仙酔島には、日本で唯一ここにしかない五色岩があるとともに、旧国民宿舎の利活用が検討されており、今後中長期での滞在に期待ができます。多島美を臨むことのできる景観は滞在する宿泊客の満足度を高められるでしょう。また、神勝寺をはじめとした寺社仏閣において禅を体験することができ、旅人の休憩所として辻堂が多く存在するなど、心を落ち着けるにも適した環境です。

近年のトレンドとして、旅を通して心の浄化を求める「リトリート」「マインドフルネス」などといったキーワードが注目されています。

本市では、こうしたリトリートを求める人々の需要を満たすことのできるエリア、拠点が数多く存在しています。また、鞆の浦についても、地域から常夜灯等だけでなく、もっとスピリチュアル、日本的、ホンモノといった観点でアピールしたいといった展望が出ています。このような市場環境において、見せ方、発信方法を工夫することで本市は新たな需要を開拓していくことができると考えられます。

(3) 地域資源の現状分析・評価

総括

<地域資源の優位性・潜在性>

■ 陸・海の両方の魅力を楽しめる豊かな食文化

本市は瀬戸内海の家産物などが豊富な漁師のまちであるとともに、ぶどうなどの農産物が栽培されており、陸と海の魅力を楽しめる環境があります。

全国でも珍しい漁師が直接魚を出荷している道の駅「アリストめまくま」は、鞆の山側トンネルの開通によって沼隈半島～鞆の浦の周遊性向上が期待され、誘客の拠点となるポテンシャルがあります。また、山野町ではぶどうの栽培、ワイン製造が行われており、ぶどうの収穫からワインづくりまでの体験ができます。ワインについては福山大学での取組もあり、連携した展開が期待できます。

農業・漁業の活性化はSDGsの推進にもつながります。地域としても瀬戸内海イメージ戦略を考え、販売力につなげることで「豊かな海」を作っていきたいという意向があり、「アリストめまくま」を中核として、本市の農産物・海産物を活かした食を巡る旅には大きなポテンシャルがあると言えます。

■ 潮待ちの港として親しまれてきた、豊かな瀬戸内の魅力

本市において、瀬戸内海を中心に位置する地理的条件を活かした“瀬戸内の魅力”は特徴的な資源の1つであると言えます。「潮待ちの港」としてかつては商売の中心であった鞆の浦の町並み、瀬戸内海の穏やかな気候をフィールドとしたカヤックなどの海洋アクティビティ、底引網漁や海苔養殖といった漁業、さらに地元漁師が直接魚を出荷する「アリストめまくま」など、瀬戸内の魅力を感じられる生業と、それらを体験できるコンテンツやスポットが南部地域を中心に存在しています。

さらに、瀬戸内海から見る工場夜景のように、瀬戸内海の魅力と掛け合わせた、新たな福山ならではの価値も、高く評価されています。本市の瀬戸内海に隣接するエリアには、漁業や観光に関わる地域プレーヤーが多く、海を観光利用した体験コンテンツや民泊により誘客を図る新しい取組みも行われているため、観光による誘客を切り口とした取組テーマとして、高いポテンシャルを持っていると言えます。

(3) 地域資源の現状分析・評価

総括

<地域資源の優位性・潜在性>

■ 古墳群などの歴史文化を活用したシビックプライドの醸成と誘客

本市には古墳や砂留、辻堂などの歴史的な価値のある資源が北部・北東部地域を中心に多く点在しています。また、神辺本陣、廉塾など城下町～宿場町の流れをくむ武家文化を体験できる文化財も残されています。その多くが地域住民の手で守られており、古代～中世～江戸時代までの人々の暮らしを知ることができる貴重な地域資源であると言えます。

これらの文化財を守る活動を通じた取り組みはシビックプライドの醸成に繋がるほか、神辺町観光協会を中心に、エリア内の歴史資源を巡るガイドツアーが実施されているように、歴史・考古学ファンをターゲットとした観光誘客の仕掛けにも大きな可能性があります。

また、本市ではけんか神輿やほら吹き神事など、伝統的な祭りが現代にも受け継がれており、素戔鳴神社では棧敷席を設置し、観光コンテンツとしての活用の動きも見られます。

こうした歴史文化の保存・継承活動においては、担い手不足の課題が各所で見られる中、より地域住民を巻き込んだ取組や、観光客を巻き込んだ応援団づくりなどが重要となります。

■ 市民の生活文化・アートを切り口にしたまちづくり

JR福山駅があり、本市の玄関口とも言える中央部地域では、博物館や美術館などが並ぶほか、令和4年に大規模改修工事が完了した、天守北側鉄板張りである「福山城」や、2025年には世界バラ会議福山大会を控え、本市のシンボルである「ばら」が咲く街並みなど、観光客など外から来る人へ福山らしさを印象付ける生活文化が多く存在しています。

地域住民の生活に欠かせないローカル線（福塩線・井原線）は、観光利用においても鉄道ファンだけでなく、ワインやイルミネーション、デジタルスタンプラリーなど幅広い層を対象としたコンテンツと掛け合わせた取組が展開されています。また、工業地帯が広がるエリアでは先進技術を学ぶと同時に、自然環境について考える機会を作っていくなど、昨今の観光トレンドにも挙げられるSDGsやサステナブルの観点との親和性も高いと言えます。

新たなまちづくりの動きとして、民間事業者と連携した取組が活発化している中で、ばらや福山城を中心とした、歴史的背景を踏まえたストーリーづくりの工夫を施すことで、住んで良し、訪れて良しのまちづくりを推進できるポテンシャルがあります。

(3) 地域資源の現状分析・評価

総括

<マーケットトレンドとの親和性とアクセスの優位性>

■ サステナブルツーリズム等のマーケットトレンドとの親和性も高い

現在、世界的にサステナブルツーリズム（持続可能な観光）に対する意識や関心が高まっています。サステナビリティに関心の高い旅行者は、地域の本質に触れる体験や、観光を通じた地域への貢献を重視する傾向も強いとされています。豊かな自然や歴史・文化、伝統産業など、多様な地域資源を有する本市において、地域住民との交流型ツーリズムを推進し、深い学びを提供していくことは、マーケットトレンドとの親和性が高いものとなっています。

こうしたサステナブルツーリズムのトレンドを取り入れ、観光を持続可能な地域づくりにつなげていくことが重要です。

■ 元来の交通アクセスの良さに加え、域内往来がさらに便利に

地理的な面から見ると、瀬戸内海に面した本市は海・山それぞれの魅力的な資源を身近に感じることができ、南北で異なる豊かな自然に関連する資源が挙げられているのも特徴の1つと言えます。加えて、交通アクセスにおいて、本市は新幹線のぞみの停車駅である福山駅や、国・県道、高速道路といったインフラ環境が整備されており、福山駅から車で1時間程度で市内各所を訪問できる恵まれた立地にあることから、交通の要所であると言えます。

また、鞆の山側トンネル・通称「鞆未来トンネル」が2023年度末に開通することにより、福山市を代表する地域資源「鞆の浦」と市内各エリアを繋ぐことができる可能性も、今後広がっていくことが予想されます。